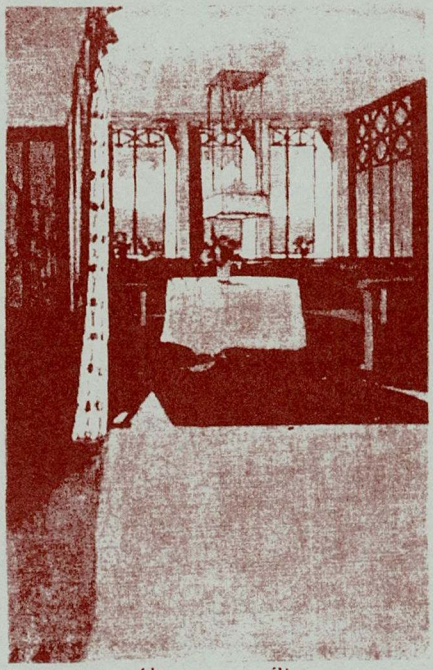
建築ト社會

第四輯　第七号



徂徠
——雲と光——

大正十年　七月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントヲ希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ賛成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ會員ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ會員ニ之ヲ通知スル場合ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルヽコトヲ得ズ

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルヽコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長タル理事ヲ含ム）

四　理事　十名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭、副會頭、理事長ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主事　一名

二　主計　一名

三　編輯　若干名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓本會ニ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第二十二條　本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十三條　本會ノ財產債權債務及毎月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及毎年ノ收支ハ理事會ニ於テ決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



大阪市東區中道川西町五百六十一番地　電話南三八〇五番

日本エレベーター製造株式會社

營業種目

（東）エレベーター、リフト　試運轉
（松）コンベヤー　各種機
（式）捲上機械　高保能
架空索道及諸機械　据安實
右設計及製作　裝驗

出張所
東京市丸之內東京驛前海上ビルヂング六階、六一九號、六二〇號室
電話丸之內九六〇番
本局二二〇二番

特約販賣店
東京市麹町區永樂町
高田商會　本支店出張所

代理店
大連市山縣通百番地
日米公司
電話二二七〇・二〇四五番

代理店
朝鮮京城府長谷川町八十五番地
日米公司
電話二五三〇番



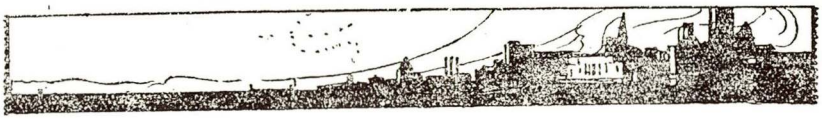
建築と社會　第四輯第七號目次

▲口繪……（徂徠――雲と光――（三色版）
大原社會問題研究所外觀（寫眞版）
全上平面圖（寫眞版）

〔卷頭〕
○炎帝駕御……

〔論說〕
○都市の改善（下）……日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安……二
○市制及其運用……都市研究會副會長　內田嘉吉……六
○藤井厚二氏の「住宅に就て」を讀みて（上）……會員　園部文雄……一一
○自分の家を建て見て……會員　設樂貞雄……一六

〔研究〕
○ポルトランドセメントの成分及び其硬化に伴ふ變化に就て（3）……工學博士　細木松之介……二三
○請負人が注意すべき權利義務（上）……終身會員　有山福重郎　瀧本辯護士編……二九



〔都　市〕

○將來の市加古市(14)……ウオルター・ディ・ムウディ著　Z Y 生　譯……三五

〔住　宅〕

○住宅研究(四)……會員　建築士　工學士　葛野壯一郎……四五

〔講　壇〕

○歐米の住宅問題に就て(上)……名譽賛助員　工學博士　直本倫太郎……四九

〔資　料〕

○英國に於ける建築組合の進歩(上)……ジーデーエィチ・コール……五四

○都市社會事業と社會事業家(上)……岩村貫三郎……五八

——ハル・ハウスのミス・ゼエーン・アダムス——

〔漫　錄〕

○太西洋を見る日まで(八)……會員　波江悌夫……六六

○[illegible]消防はなし……かうそん……七一

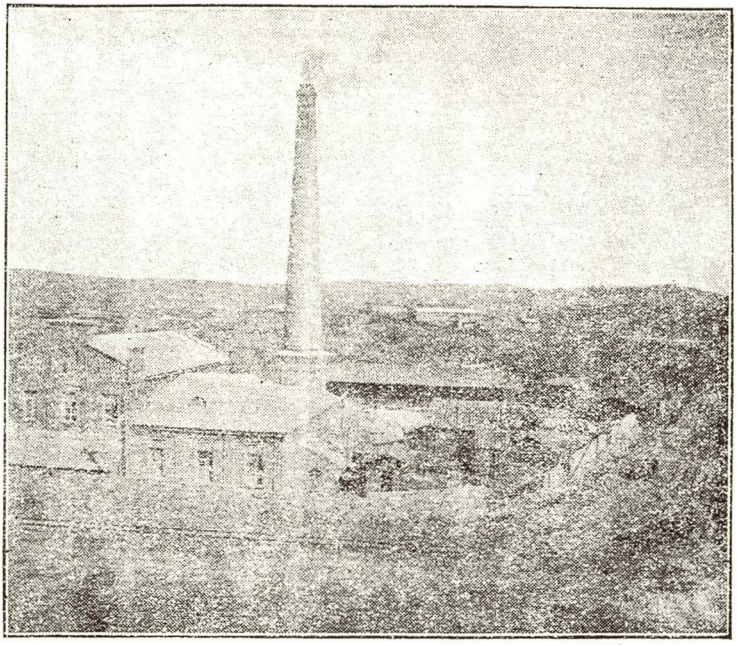
○蝸牛の殼……吉村美代子……七七

——物質生活と精神生活——

□時　報　□會　報

現代建築界ノ最高權威

關東廳土木課・南滿鐵道會社・大阪府廳・市役所
其他諸官省・有力土木建築設計家各位・實驗證明



顧問技師　工學士　雨宮春雄

相談役　前野芳造

營業目的

滿州産

青色大理石、黑色大理石
鹿兒島産白色硅藻土
白色硅石及硅石粉、酸化マグネシユーム粉末、滿蒙セメント各種、雜礦石
海水石鹼

舖床材料

耐火リノリウム（專賣特許出願中）

耐水、衛生、保温、美觀、低廉

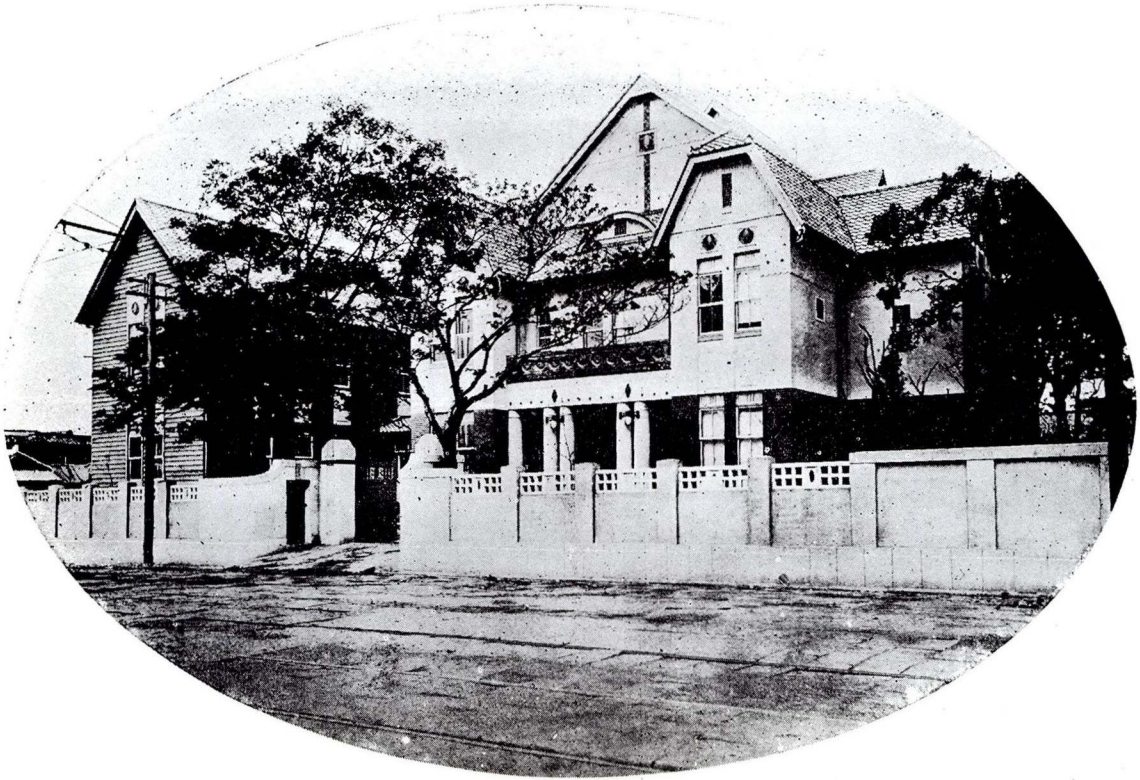
土木建築用防水劑

ボースイ（專賣特許出願中）

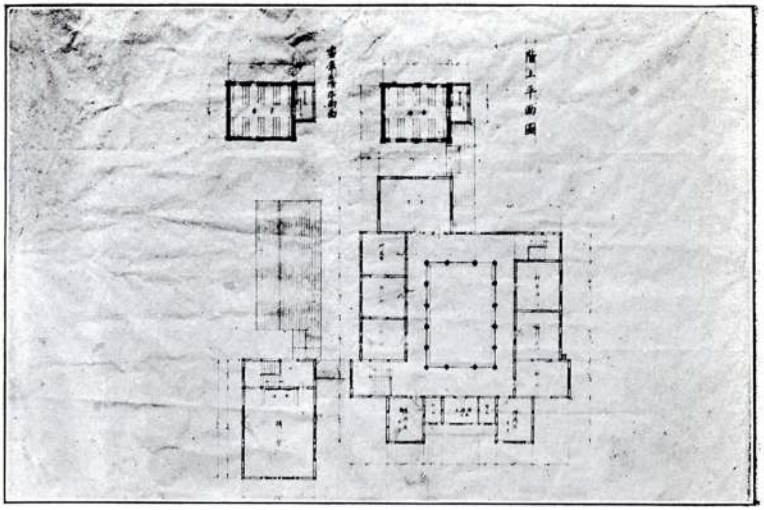
品質內外品ニ優リ價格低廉

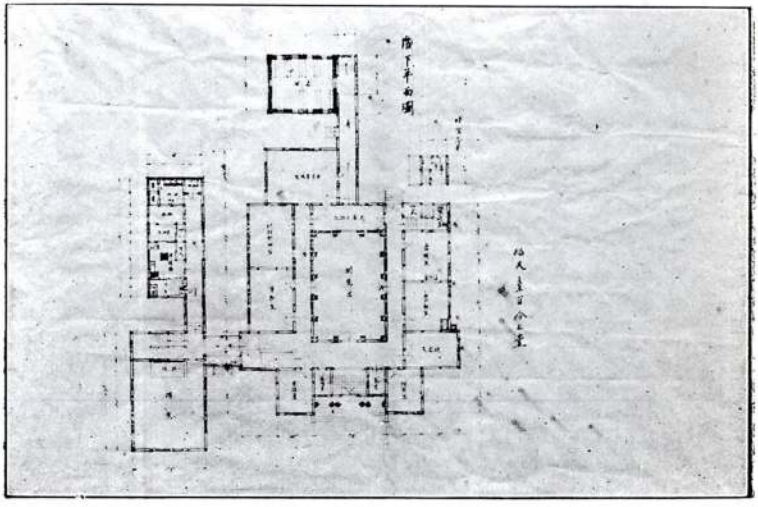
滿蒙化學研究所代理店

大阪市北區南安治川一丁目十三番地
大阪耐火リノリウム工業合資會社
電話西（營業用）四五九
（長）二五五四
三六三三



大原社會問題研究所外觀



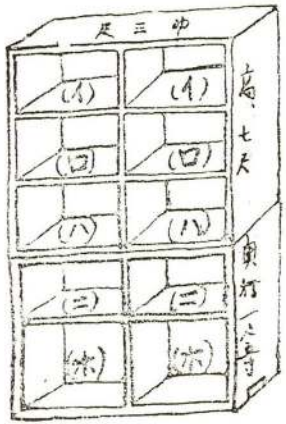


全上平面圖

建築材料見本棚出品規定

一、本會事務所集會室内ニ建築材料見本陳列棚ヲ新設シタルヲ以テ會員及會員外ノ出品ヲ歡迎ス

一、出品料ハ陳列棚ノ種類ニヨリ左ノ割合ヲ以テ貸與ス



	一ケ月金
(イ)	壹圓五拾錢
(ロ)	貳圓
(ハ)	貳圓
(ニ)	壹圓貳拾錢
(ホ)	壹圓

一、期限ハ半年ヲ以テ一期トシ出品料ハ前納スルモノトス

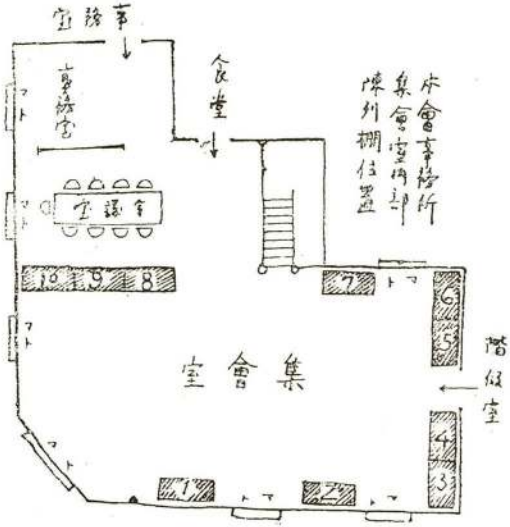
一、一年以上ノ契約ニ對シテハ前項ノ出品料ノ一割ヲ減ズ

一、會員ニアリテハ前項ノ出品料ノ二割ヲ減ズ

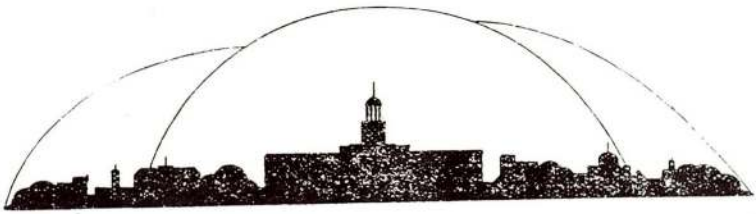
一、出品ノ位置方法ハ出品者ノ隨意ナリト雖、場合ニヨリテハ本會ニ於テ之ヲ變更スルコトアルベシ

一、既納ノ出品料ハ理由ノ如何ニヨラズ之レヲ返附セズ

一、陳列棚位置左ノ如シ



（備考）申込書及契約書ニ關シテハ本協會事務所ニ付承合セラレタシ

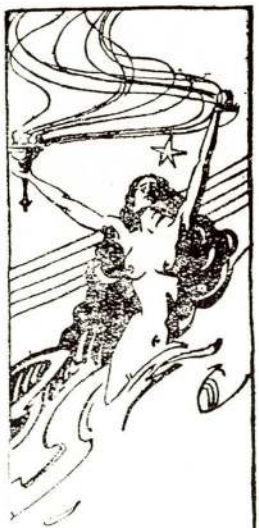


建築と社會

炎帝駕御

英人は暑熱の足らずして游泳に適せざるを憂へ、驗温器の昇らんことを希望する者多し、偶々温度の加はれば、雀躍して海濱に出づ。我國は此より温暖なると共に、伊太利の加く、西班牙の如く高度ならず、略ぼ中和を得たりと爲すべきに少し暑しとて執るべき業務を執らず、嬉轉びて日を過すと心得違ひの沙汰ならずや温帶の多くは四時人に可、夏日に夏日の樂みあり、冬日に冬日の樂みあり、豈に夏日の唯だ春秋のみ快適なりとせんや

――雪嶺先生――



論說

都市の改善（下）

日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安

（講演に依る、文責在記者―郊郊）

次に、都市改善に必要なるものは、社會政策的施設なりとす。社會政策的施設とは、甚だ廣汎なる範圍及交渉を有する問題なるが故に、今此處に之を詳說するは紙幅の容さゝる處なるも、其中心を成すものは、實に、住居政策其ものなり。大都市に於ては、住居政策の解決を個人ノ力に俟つことの不能なるを通則と做し、寧ろ公共の力に藉つて解決すべき運命を有す。即ち、住居政策は、都市民の大多數者に最も適當なる健康と、愉快なるhomeを有せしむるの政策なり。斯る政策に藉つて、都市民に住居を充分に供給する事、維れ、實に現代の都市に於ける重要問題の一なりとす。而して、單り住居の供給に止まらず、例へば、公設浴場、或は、電燈電力の公營、其他種々なる施設を要するも、之等は、凡て社會的施設に藉つて。都市の改善を企圖する一事に外ならざるなり。

以上叙述せる交通計畫殊に交通機關の準備、衛生的施設、公園設備、教育機關の完備、社會政策の一

部たる住居政策、之等五箇の項目は、都市改善事項中、重大なるものを分類叙説したるなり。而して、之等の事項を外にして、都市民の更に考慮を要すべき重要問題は、實に、建築其ものなりとす。

前叙一般的施設の外に、個人又は個人の集團が活動する建築なるものは、則ち都市生活の根據地なるが故に、其建築は、共同生活上最も有利にして、其經濟的活動に於て、又凡ゆる市民の幸福を增進する能力の充分なるものならざる可からず。

而して、建築の改善が、實に都市改善の半面なることは、之に仍りて推知し得べく、而も、我國の都會が其建築改善の急要に逼られあることは、恐らく、他國の都市に於て視る能はざる處なりと換言すれば世界の諸國中、建築の最も努惡なる都會は、獨り我國のみとす。我國の首都東京市に於ても、又、東洋商工業の中心地たる大阪市に於ても、雜然混如として、不統一なる建築、貧弱にして脆小なる建築を以て滿されある事は、我文化生活上の恥辱にあらずして何ぞや。

斯くの如く、我都市の建築が極めて粗末なる爲、其都市の共同生活上に及ぼす損害、不利益、不安其他凡ゆる弊害は、數字的にも、又間接の利害上にも、非常なる影響を有すること、恐らく何人も容易に首肯する處なるべし。されば、之を奈何に改善すべきか、奈何に利用すべきかは、專門家以外の者の深く考慮を有せざる處なるも、斯問題は必ずしも專門的智識に藉りてのみ解決すべきものに非ざるなり。即ち、其解決は、須らく、市民の自覺に俟ち、市民各自が、此の建築に藉りて其幸福を增進せむとの觀念を有し、眞に理解ある根本義に立脚せずむば、都市改善は、畢竟一場の迷夢に畢らむのみ。されば、都市の建築に對する法的制限は、各國の都市に於て弘く行はれ來りしも、我國に於ては、最近に至る迄何等の法的制限無く、又市民の之に對する自覺無かりし爲、明治維新以來五十年を經過せる今日に於て、此の建築の改善問題即ち都市人が斯く貧弱なる建築より受けつゝある損害の奈何に莫大なるかを想ひ、之を奈何にして取締るべきかに就て、吾人は可成り努力を捧げ來りしが、幸にして、我六大都市には。

大正十年一月より『市街地建築物法』なる法的制限を設けられ、將來の建築物には、從來の如くに個人の自由に委することなく、相當の用意ある建築に非ざれば之を許さゞることゝなれり。這は法的制限として、吾人は之に謳歌する者なるも、所詮は消極的制限に過ぎざるなり。都市民は、斯る消極的制限以外に、自ら積極的改善を圖るの大なる覺悟なくむば、都市の凡ゆる改善は、畢竟徒勞に終らんのみ。

隨つて、今日都市建築に就て、市民の享受すべき大なる幸福の一は、果して何なるかを繹ぬるに、开は、都市の建築物が區劃に依りて制限されたる事々にして、即ち、彼の『地域制度』ZONING是なり。此のゾーニングなるものは、例へば、「工場地帶」を何れの場所に設定するか、即ち、此の地帶内に工場を集中し、又、或範圍に「住居地帶」を設定して、此の住居地帶は、工場其他住居の安寧を害するものゝ建造を許さゞると成し、或は、「商業地帶」を何れの地域に設けて、其地域内に建設するものを制限する等、要するに或地區を限定して建築を制限するをゾーニングの本義なりとす。而して、我六大都市は本年より、斯る地域制度を施行され、今後は、我等住居地域に於ては、工場の騒音又は煤煙に惱まさるゝことなく、兎にも角にも、或幸福を享受し得べく保障さるゝことゝなれり。併し乍ら、斯る地域制度も、今後には順次適用さるゝことならむも、吾人は、從來の建物に對する整理の、尠なからず難事の一たることを憂ふるも、今後幾年の時期を劃して、之が徹底的に行はるゝことを期待して疑はざるなり。

次に、斯る建築の制限に就て、更に一の重大なる影響を及ぼすは、彼の『防火地帶』なるもの是なり。斯の制限は、都市の經濟上重大なる關係を有するが故に、例へば、火災に會して容易に燃燒する建物を制限するが如き、其一例なり。現在我國の都市に於ては、何處に奈何なる家屋を造り、又一旦火災に會して容易に燃燒するが如き構造を有して、他人に如何なる迷惑を及ぼすとも左したる制裁無き現狀なるが、一度び『防火地帶』なるもの設定されむ歟、其重要なる防火地帶には、火災に會して容易に燃燒する建物を許さゞるが故に、其一箇々々が安全なるのみならず、其都市が安全なる帶を纏へるが如く、今後

斯る建築法規に依りて、我都市民の享受すべき福利は、蓋し、大なるもの莫くむばあらざるなり。

更に、今一事の述ぶべきは、都市建築物の高度に對する制限なりとす。即ち、我國は、如何なる場合なりと雖も、最高限度百尺を超ゆるを許さゞるなり。換言すれば、今後最高百尺以上の建物の建設は建築法規の絶對に禁ずる處なり。但し、或る特殊の建設物例へば「塔頭」或は「煙突」其他特殊なる附屬物の突出は、斯の制限外なるも、建物の本體は、最高百尺を限度とす。斯の制限は、一見甚だ無意味に感ぜらるゝも、土地の經濟的利用より觀む歟、都市の重要なる地點には、十階、二十階、或は三十階の如き家屋を建設するとせば、其者は其土地を利用せんとするものなるが、之が爲其都市全體、又其附近の受くる損害は、決して鮮少ならざるなり。今此處に、之等の損害を一々例擧するは煩に耐へざるが故に之を省くも、僅に其一二を擧げむ歟、例へば、交通狀態を困難に陷らしめ、或は其附近に深大なる投影を爲して光線を遮り、又は、空氣の流通を阻害する等、凡ゆる損害を與ふるに到るべし。亞米利加の都市を一覽せる者は、彼の摩天閣に驚嘆禁じ能はざる者あらむ、されど、現に米國都市民の、彼の摩天閣に因りて如何に多くの損害を受けつゝあるかを懷はゞ、吾人は、甚だ賢明なる立法が我邦に採用されたる事を、慶賀せざるを得ざるなり。惟ふに、我邦にては、屢々地震の災を受く、又種々なる意味に於て、此の木造建築の粗雜なるもの、或は煉瓦造の不完全なるものを作りたる事は、都市全體、都市民の安危に關する問題なるが故に、是に對して、斯くの如く幾多の制限を見るに到りたるなり。

以上は我國都市の建築を改善すべき重要事項の二三に過ぎざるが、之等は政府に於て、唯建築物の改善を指導すべき大體の方針を示したるに外ならざるが故に、都市に於て業務を營み、都市に於て活動を爲す者は、建築物の改善に藉りて、一般的施設改善の實效を擧げむこと、維れ、吾人の囑望禁じ能はざる處也。（畢）

市制及其運用

都市研究會副會長　内田嘉吉

申までもなく、近來都市生活なるものは非常に重大な問題になつたのである。私は最近歐米の各國を二三年來旅行を致せしが、戰後に於いて、各國共都市は著しく重要な問題を有つ事になつたのである。

是は、戰前に於ても、世界の商工業の發達した都市に於ては、重要な問題なりしが、戰後に於ては、一層重きを加ふる樣になつたのである。即ち現在の社會に於て、社會政策なるものが何れの國に於ても最も重要な問題となつたのである。而して、此の社會政策の問題を解決するには、必ずしも都會の問題を解決するに依て能事終れりと云ふ譯ではないが、社會政策の最も重要なる點は、皆な都市に屬して居るのである。

都市生活は、之を極く簡單に申述ぶれば、即ち社會政策の中心となつて居るのが現代の傾向である。過去に於いて、各國人口の分布を見るに、地方の人口は都會の人口に比して多かつたのであるが、商工業の發達に依つて此の人口の分布狀態に著しい異動を生じ、都市の人口が密集して、地方の人口は漸次稀薄になる狀態になつたのである。即ち、之は、地方の不便な所に生活するよりも、中央に於て生活したいと云ふ希望、又商工業の發展に伴ひて、斯樣な事になつたのである。

現代の都會生活の實況は、一面には便利なれども、他面には極めて不自然になつたのである。又世の中で何れの方面に暮す事が容易であるかと云へば、田舍で暮らす事が樂であり、極めて安全に暮らす事が出來る。又衛生的に暮す事が出來る。都會の生活は便利であるけれども、例へば大阪に於ては、彼方此方に煙突が澤山煙を吐いて居る、生活上不愉快な狀態を惹起す樣な事になつた。曾

て住みよかりし都市も、今日に於ては、寔に非衛生不愉快な所である。左樣な事情は、今日都會の中央に住つて居る人を驅つて、郊外に住居させる樣な時代に相成つた。今日の儘で放任して置くなれば、都會は極めて不節制、極めて不愉快の所となつてしまうのである。田舍の人は長命をするけれども、都會の人は甚だ命が短いと云ふのが今日の狀態である、併し、都會に生活する人は、斯樣に不自然な、非衞生的な生活を經驗して行かなければならぬかと云ふに、決して左樣ではないのである。相當なる施設を爲て、此の不自然なる生活狀態を、又自然にして淸らかに、極めて安らかなる生活狀態に引戻す事が出來るのである。即ち、それ等の生活狀態に引戻すに就て必要なのが、即ち都市の研究其ものである。

此の都市生活なるものは、人文の進歩と共に必要なものであり、避くべからざるものであるとすれば、是に伴ふ害毒を少しでも減ずるやう工風をしなければならぬのである。都市研究會は斯の點に就いて種々の事項を研究するのである。

道路の問題にしても外國の道路と日本の道路は實に比較にならぬ、日本の道路は道路にあらずまで言はれて居るのである。道路は道路かも知れぬが、少しも道路に對して設備が加へてない、天然有の儘の道路である。多少砂利を敷いて道を好くすると云ふ樣な事は實行されて居るけれども此の砂利は交通の邪魔をする事もある。東京市の道路でも大阪市の道路でも外國人に對しては實にお恥しい位である。此等の問題に對して究研を爲し、なるだけ廉く、なるだけ良好に道路の改善を圖ると云ふ事は、都市研究の一つの目的である。

又、衞生的設備にしても、下水、就中尿屎の處分等に就ては、日本の狀態は極めて不全完な狀態にある。此等も諸外國の都市に於ては、どうやつて居るかと云ふ事を研究し、之を如何にして我國に適用する事が出來るか、と云ふ事を研究せなくてはならぬ。

又、大阪の都市の發達でも、恰當、樹木の輪廓が增加する樣に、自然々々に大きく殖へて行くのであるが、其の場合に、市內の交通上から、どう

しても、電車なるのを完全にしなければならぬ。又電車の改善に就ても種々研究すべき點がある。學校の問題でも、其他列擧するならば、種々な問題がある。近頃は、住宅の問題が亦頗る喧ましいが、此の住宅の改善、補充と云ふ樣な事も、種々研究を要するのである。

それで、我都市研究會の研究の結果を申述べむか、此の目的を達する爲に、東京に於ては、四十二回の講演を開き、又大阪、京都、神戸等に於て二、三回の講演會を開いた事もある。併し、我々の意見を申述べると同時に、東京市に於て、市公民の意見を尋ねて見たいと云ふ考を有ちて、六萬五千枚即ち東京市の公民數が其の位はあるので、六萬五千枚の往復ハガキを差出したのである。此の往復ハガキには、三ツの問題を掲げて置いた。其の質問の事柄の第一は、市民は從來自治の民として其の本分を盡し、自治的協力（例へば議員の選擧、町内の協議等）を遂ぐる上に於て、遺憾を感せらるゝ點なかりしや。第二の問題は、若し遺憾の點ありとせば、之を改むるには如何にせば宜しきや。第三は、現行市制の運用上遺憾と認めらるゝ點ありや、現行制度を改むる必要ありとせば其の要目如何。斯の三ツの問題を提供して、市公民諸君の意見を尋ねたのである。その結果を見るに、返事の到達致したのは、六千百枚である。約一割位にしか當らないのであつた。

最初此の一割の數と云ふ事を知つた時に、東京市民は斯くまでに市制に冷淡であるかと、我々は聊か不滿の考を有つたのであるが、細かに此の六千餘枚のハガキの答申を讀んで見ると、寔に熱心である。數に於ては一割であるけれども、質に於ては遙に我々が希望した以上の回答を得たのであつて、斯の點に就ては、大に意を强ふしたのである。

我々の目的は、答案を得る事を以て第一の主眼とはせないけれども、乍併、自治の振興、市民の自覺を促したいと云ふのが希望であつたから、斯の點に就ては、回答を送つて呉れなかつた人々に對しても、相當の注意を促したと云ふ事になるのである。況んや、數に於ては一割であるけれども

六千餘枚のハガキに認めてある所の事柄が、非常に多岐多様に亘つて居る。二萬有餘項に亘つて居るのである。第一問に對して四千幾ら、第二問に對して、七千幾ら、第三問に對して九千幾許の事項が認められてあつて、實に千差萬様、市民諸君が種々なる意見を我が研究會に回答を致して呉れたと云ふ事は、我々の感謝の意を表せざるを得ぬのである。其の外に、尚ほ、叮嚀なる、或は數十枚の紙に意見を認めて本會に向つて意見を寄せられた方もある。

斯の企ては、甚だ些少なる事の様であるけれども、聊か自治振興の聲を東京市民に注入したる點に就ては、若干の効果があると自信するものである。大阪に於て若し同様の事を繰返したならば、今日に於ては、尚ほ多くの意見の御開放を得る事が出來るであらう、と思ふのである。或は又他日其筋と御相談をして、必要であるならば、大阪市民諸君の御意見を伺ふ事も必要であらうかと思ふのである。是は、一に、諸君が、自治に對して、如何なる目的を有たるゝか、と云ふ事を吾々は訊きたい、と云ふに外ならぬのである。

而して、市政に關して種々なる御意見を解放せられた中に、色々な御意見があつた。我々は審かに其の趣旨の在る所を研究したのである。

市民諸君が回答した種々な中に、市政に就ての意見があつた。即ち、質問の中に、現在の市政の運用に就て遺憾の點があるか無いか、と云ふ事を尋ねたが、是に對し、大多數の意見として、運用上遺憾勘からず、と云ふ事を回答せられた。我々も、東京の現狀に照らすと、左様なる回答のある事を略ぼ豫期したのである。而して、どう云ふ點であるか、是は細かに申述べる遑がないけれども、其の大要を申述べると、第一に、市會議員の選擧に就て甚だ不充分な點がある。市會議員の選擧が、今日に於ては、市民の理想として居る所の選擧を行ふ事が出來ない様な狀態である。甚だ忌まはしい事であるけれども、昨年、東京市に於ては、市會議員其他市の關係者に不祥なる事件が起つた爲に、東京市民は、市會に對して信頼して居らぬ様な語氣の回答もあつた。而して、是を改善

する意見に就ては、斯様な御意見もあつた、即ち候補者となる人に對しては、よく其の履歴を明にして貰ひたい、而して、選擧をする人が、其の履歴を判斷して、適當なる人を選ぶ樣にしなければならぬ、適當なる人が選ばれる事になれば、市政も完全に實施せられる樣になるだらう、といふような意見であつた。是は、尤もな意見と言はなければならぬのである。

それから、現行制度に就て意見があるか無いかと云ふ事を尋ねたのに對して、市公民の範圍を廣くする、即ち市會議員を選擧する者を多くする、と云ふのである。現行の制度に於ては、國稅二圓以上を納める人を公民とするのであるから、非常に少い數である。是を改正しろ、と云ふ意見が多かつた樣に記憶して居る。

尙ほ、市會議員を選擧するに就ても、種々御意見があつた。而して、我々は此等の回答に依つて市民諸君の多數の意見が如何なるものであるか、と云ふ事を知り得たのである。

我都市研究會に於ては、研究を致し、又諸君の御意見をも伺ひ、成るべく之を實際に應用する事に努めたい、と考へて居るので、大阪市民諸君に於ても我都市研究會に對して充分御助言あらん事を希望するのである。（文責在記者）

風來二疎竹一風過而竹不レ留レ聲。
雁度二寒潭一雁去而潭不レ留レ影。
故君子事來而心始現。
事去而心隨空。

□□藤井厚二氏の「住宅に就て」を讀みて（上）

會員　園部文雄

はしがき

二三日前僕の机の上に小型の郵便物が置れてあつた、多分新建築材料の型錄を何處かゝら送つて呉れたものだらうと何氣なしに封を切つて見ると親友の藤井君が送つて呉れた首題の如き小冊子であつた。

其時の感じを卒直に云はして貰ふと藤井は何を思ひついてこんな事をしたのかと一種の輕き疑問の念が腦裡に映つた以外何物もこれはといふ程のこともなかつた、これは或は餘りに同君の性行をよく知り拔いて居る結果であつて嘗て東京在學中本郷西片町に同君外一二の人々と共同して一軒の家を借り寢食を與にして居つたことのある僕には餘りに親し過て其行爲が却つて變に見へたのと今一つは同君の渡歐中僕は支那方面を放浪して居つて彼是二年近くも遭遇の機會なく同君近頃の行動を確と知らなかつたので昔の印象のみが頭の中にあつた所へ突然簸棒式にこの冊子を突き着けられた。

が併し兎に角何いふ事を云ふて居るのかと好奇心にも驅られて早速讀み下して見ると思ひ出る點があつた、それはこの三月の末久々振でもあるし他に談しもあり君を山崎驛前に訪ねた時初めて見た君の目下の假寓の建築と次に建てるといふ建築に對する君の考へつゝある所である。其當時今の假寓の一部を「スケッチ」して居られたがこんな冊子を出すなぞとは一言も聞かなかつたので何等意見を闘はす機會もなく分れたが送られた冊子を覽ると君の考へに對する意見を求められて居られて

吾々建築に從事する者や又は之に趣味を有する者に議論の種を播かれた形になつて居るので親友の誼としてゞも何か言はねばならぬ樣な氣持も起り御笑草に愚見を述べて一緒に皆樣の御高敎を仰ぎたいと思ふのであります。

私の意見は直接藤井君迄送らうとも思ひましたが旣に上述の樣に改良住宅に對する議論の種を一般に播かれたものとすれば內密に一人や二人議論を闘はして居るよりもこれを公開して議論の範圍を大きくし名論卓說の多數續出する方當に同君の希望をヨリ多く滿すのみならず一つは社會に貢獻する事も尙大ならんと愚考しまして貴重な紙面の餘白を借りたる次第是非何等かの御討議を願ひたいのであります。

藤井君の說によると住宅に重きを置くことを第一の眼目にして居ます、住宅に就て論ずる冊子の第一に住宅に重きを置くことを言ふは一見何の奇もなく寧ろ當然のことでありますが君の所謂住宅に重きを置く事とは無駄な茶屋遊びをしたりつまらぬ道樂に金を費すよりも自身の住ふ住宅を大切に考へ又床柱や庭石門塀に莫大な金を投ずる位ならば豪所、浴室便所等の設備を完全にせよといふ意味でありて單に住宅問題の一項目を論ずるよりも寧ろ一般生活の改善、趣味の轉換を奬めて居る樣であります、これは僕等も至極同感であつて所謂成金とかいふ連中が一部は策略上かは知らんが莫迦氣た建築を爲たり又は莫迦な眞似をして居るのを見て憤慨の念を懷いて居る者である。併し藤井君の言ふ樣に多數の人々は何の考へも無く建てた出來合いの家に住み馴れて住宅といふ事については殆ど無意識で居るかどうかといふ事については多少反對せざるを得ないのである。

成程我國の多數の人々は所謂マッチ箱の樣な家に住て居つて建合せの惡いがた〳〵の家で平然として居る樣でありますが東洋人の通性としての往宅に對する觀念の薄きことゝ四圍の風光餘りによき爲特に住宅をチャフルにする必要もなかつた事と所謂九尺二間の詫住居式なる傳統的觀念に加ふるに經濟問題なる重大要素が加味されて起つた現象でありまして其內最後の要素が何と言つても重

大原因を成すのではなからうかと考へるのであります。

誰だつて愉快なる住宅、設備の完全した住宅に住つて悪い氣持の爲る者はあるまいから改良した住宅を欲し進歩した設備を使用したいと思ふ事は明であらうが其熱望する程度が低いのと例へ熱望しても儘にならぬからまあ〳〵と仕方なしにマッチ箱の内に納まつて居るのが眞實の所ではなからうか、そして儘になる程度の人は多く所謂成金式の趣味を發揮して人目に觸れる所に許り力瘤を入れ一寸廣告的の建築を爲て誇るのではなからうか、つまり住宅に對する觀念が西洋の人々とは大分相異がある所へ持つて來て所謂成金も不成金も夫々内容の充實した程度の家を建つる迄の餘裕を有たない爲に充分な事が出來ないのではなからうかと思ふのであります。

次に猥りに外國の眞似をせぬことを論じてあるがこれも寔に同感であつて氣候風土の異て居る所に相應して發達して來た外國の建築を氣候風土の相違して居る許りでなく風俗習慣の異て居る我國に直ぐ應用し樣と言つた所で旨く行かないのは當り前で吾々は盲目的に外國の眞似をする事を戒めなければならぬ事は明であり大體論としては議論の餘地はありますまいと考へます。

併し惡しきものは棄て良きことは採りて我國に適した事に工夫を應用し今迄の缺點を補ふことの可否に就ても亦論する迄の必要もなき事と考へます。

由來我國の歷史を考へ日本の國民性を稽へ我國文物の發達を思ふ時は初めは盲目的の模倣より遂には合理的の同化に至つて居りまして少し極端かも知れませんが昔から今まで模倣と同化を繰り返して許り居り日本の文物から模倣同化を取り去れば何物をも殘さないのではなからうかと考へられるのであります。

話しは少々横道へ深入りし過ぎるかも知れませんが序でに今少し具體的に說明して見ますると神代より初め佛敎渡來迄は日本にこれはといふ程の文物もなかつたのであります、而もそれが三韓征伐や又は其以前にあつたと想像される大陸方面と

の交通の結果築き上げられたものと考へて見ると殘念ながら日本固有の文明といふものは殆ど取るに足らぬものであつたと見るより外に仕方がありません。

其れが佛敎渡來と共に大陸の文化が入り制度に文物に數段の相異がありました結果一も模倣二も模倣と長い間模倣ばかり爲て尙追付くに汲々としたのであります。それが遣唐使の廢止などゝ共に交通遮斷せられたので暫く模倣も中止され專心同化に勉めたが鎌倉時代に再び一寸模倣に入り其後德川時代になりて同化許りとなり明治維新と共に毛色の異つた歐洲文明に接觸して再び佛敎渡來時代と同じ樣な激敷模倣時代に入り其が引續て今日に至つたのである、最も模倣最中と雖も同化に勉めた事は明であつて現代もいはゞ一部模倣一部同化の道程ではなからうか。

して見るとよき意味の眞似模倣は何も排斥すべきものでなくこれを排斥すれば日本の文明は行き詰りとなり遲れたものは遲れ切りとなる虞れがあるから排斥處か寧ろ早く取り入れて世界中模倣するに模倣する對手のない所迄早く行きたいものである。但今では悲しい哉未だそこ迄行かないので矢張模倣は絕對に止める譯には行きますまい。但し我國も最早大正となり西洋文明に接觸する事半世紀にも餘るとすればよい加減で模似を打切りとし得る樣にしたい希望はあります。

日本人は非常に同化力の盛んな國民であり初めは直譯的の模倣もするが遂には自分の都合のよい樣に同化して終ふ事は歷史上歸納的に證明される幾多の事實がある。この事に就ては何時か稿を改めて書いて見たいと思ふので今は其核子に觸れず極概括的に述べて置く積りであるが兎に角他の長を採り短を棄て終には全く自家藥籠中のものにして了ふ代りに何でも目新しいものは一度は吃度眞似て見る事も亦事實である。

總て遲れたものは進むだものゝ眞似を爲し早く追ひ付く事を心掛けねば遲れたものは終には獨立の體面を保て行けないのが現代人類社會の狀態であり又智識慾の盛な小兒がしきりに大人の眞似を爲て發達する事から考へても文化の遲れて居つた

日本が先進文明國の眞似をするのは少しも差支なく寧ろ一面から見れば甚だ喜ぶべき現象で日本は昔から眞似て眞似て尚且つ眞似を止める事が出來ない立場にあり眞似と同化で藻掻て居る結果今日の隆盛を來たしたので進歩の道程にある今日尚これを繼續せなければならぬのは亦止むを得ない事だらうと思ふてゐる、自ら高ぶりて外國を卑下し自ら中華民國と名付けて居る支那の現狀は如何であるか段々と取り遺されて死滅の時期に一歩〳〵と近寄りつゝあるではないか、恰當流水は腐らないが溜り水は腐るといふ卑近な諺の如くに。

夫れで僕はこの眞似をする事に就ては可成早く眞似をする相手の無くなる域即ち日本が世界の最上の文明を有する樣になる事を希望し亦これに達せなければ止まず達しても尚其以上の理想に向て進む日本の國運と國民性には信して居るが現代に於てはまだそこ迄は行かない結果として依然として眞似をするといふより他に仕方なく眞似をしたとて少しも差支ないと思ふて居る。

又數多く眞似をする內にはつまらぬ眞似をする事も亦止むを得まいと思ふて居る、大きく考へて見れば實驗室內で色んな藥品を混合して研究して居る樣なものだから、そして其內には本當に偉大なる發見發明もあるのだから。

第三には趣味を亂用せぬことゝあります、これも寔に同感である、併しこれも歸する處程度の問題ではなからうか。

原始時代の昔に歸らすとも中古時代の昔の樣に物の利用、生產乃至は交通文化の局限されて居た時代の樣に其地の總てが最大のものであり其土地以外の事は知らなければ問題も簡單でありましようが所謂知るは惱みの基で文明も餘り進めば其處に亦其缺點の起るのは自然の勢である、趣味亂用問題もこれに類した事柄であらうと思はれます。

日本人には趣味の爲本體を忘れ形の爲に實質を顧みない樣な嫌のある事は否むべからざる事實であるが段々考へて見るとこれは獨り日本人許りの問題でもなさそうで外國人にも相當其事實がありはせぬかとも思はれます。（つゞく）

自分の家を建て見て

會員　建築士　設樂貞雄

文化生活の向上とか簡易生活とか申して住宅は目下却々重要なる問題になつて參りました從つて建築會社は設計の懸賞募集をする建築家は競つて圖案を發表する住宅に趣味を有てる名士は新聞に雜誌に其希望や所感を告白されるから私共は大に敎訓を得て感謝措く能はざる所であります扨私も先般來住宅建築の必要を感じて居りますので種々研究して見て居りましたから其一斑を書て見たいと思ひます抑住宅の改善と云ふ事を研究するにも矢張住宅の目的とか定義とでも云ふものを考慮して見ねばなりません强て私は住宅は安息の室なりと云ふ定義を下して其要求條件を成る可く滿したいと考ました。

知れ切つた噺ではあるが住宅は火災盜難風雨震災衛生便利の諸點を具備しなければ安息の室と云ふ事は出來ない而して尙且經濟的ならざるべからずと云ふので隨分六ケ敷注文なれども尙此外に趣味の滿足と云ふ大問題があるのであります故に內容の充實されたる家族的趣味を閑却したる建築は住宅たるの資格はない慰安の場所と申すとは出來ないかと思はれます。

此住宅要求の數ケ條の內風雨寒暑等の事は國々の氣候風土に大關係あり趣味慰安等の問題に對しては其國民性及家族制度も斟酌せねばならぬ此等を一切頓着せずして西洋風其儘を輸入しても夫は一寸ハイカラには見ゆるが永住して見ると苦情澤山で失敗に終りはせぬかと考へました。

此事に就て一寸面白い噺があります或日本の朂國で土地經營の建物會社が敷地全體を一大公園として見たいと云ふ希望があつて夫には普通の樹木

では珍らしからず此邊では暖かいから南洋邊の椰子科の植物を道路並木に移植したらどうだらうと云ふ事になり或專門家に問合せた處が夫は南洋から取寄せる迄もない日本の棕櫚か棕櫚竹抔植て置けば宜しい椰子を持て來て植ても數年の後には棕櫚位に萎縮して纔に餘命を保つが關の山なり尚夫許りではない其地の丘陵に繁茂する樹木も天然自然に其處を得たもの丈けが其適處に繁茂するもの杉の谷には杉を加植せよ躑躅の多き丘には躑躅を加植せよ萩の原には萩を植足すべし是やがては全體を繁茂せしむる秘訣なりと云ふ答でありました是は箇人の庭園に迄應用するとは出來ますまいが大きな公園抔設計するには服膺すべき事と存ます

建築にも矢張其通りで英國には英國の風土獨逸には獨逸の風土米國には米國の風土に適した且各其國民性や家族制度や生活習慣に從て生じた形式があるから日本にも亦夫れがなければならぬ筈と考へました。

此社會改造の叫びの渦巻の中に於て建築をするのは却々六ヶ敷向後社會がどう改造されるか家族制度がどうなるか甚敷不安ではあるが乍併衞生食餌の標準が確立しないから其設定迄飯を食はずに居ると云ふ譯にも行かぬ先々迄養ひ馴れたものゝ内で中り障もないもので腹を膨らして置くと極た譯ではあるが日本建築發達の經路を考へて見ると捨去るに忍びない良い處も多いので其精神丈けなりとも應用するに致たいので私は茲に日本建築の特長とも云ふ可き二三を列記して見たい。

一日本座敷の洗練されたる手法には洋館の企及し能はざる點が多いのであります。

一昔の書院造抔には濡椽があり鞘の間があり夫から入側障子となる普通の民家でも廻り椽があつて庇が深く覆つて居る是は夏の暑い日本には非常に凌ぎよい構造で庇の先に簾を掛け日覆をするにも日光を入側障子の一間も先の方にて遮斷することが出來るし風雨の烈しい日本には雨のシブキを防ぐにも適當の措置である彼の洋式の壁に直接窓を切り明けたる方法では日本の風土には向きが悪いのである。

一洋式の室内はどうもゴツ〳〵して肌觸りが堅い

感じがする反之日本の室内はフックリした柔味がある木材も砂壁もフックリした調子のよいものである其他障子襖疊も此柔味に於て優て居る一彼の木の香の新しい座敷青疊の上に座蒲團を敷て桐の丸火鉢を抱て張立の障子に旭日が一杯に差して室内がポット明るくなつた中に悠然とアグラを掻いた心地は又捨難い赴きがあります。

乍併洋式建築にも良い處が澤山あります耐火盜難耐震便利風雨の防備等の要素を具備して居りますから此邊の事は漏さず採用したい日本も追々には洋式生活になり切るかも知れません何知れません處ではない舊式のものは悉皆ぶちこわせ折衷抔と生温い事では迚も社會改造は覺束ないといきり立つ人も多い乍併世間に宣傳はしてもいざ自分の住宅を建つるとなつて平生の主張を實行する勇氣のある建築家は幾人ありませうか古人の申した事に「自分の家の一二軒も建て這入て見た者でなければ他人の家が完全に出來るものか」と皮肉を云はれたさうです成程痒い處へ手の届く様にするには或はさうかも知れません。

又千の利休は其時代の建築の名手でありましたが或人がどんな家が住心地の佳い家かと尋ねましたら疵だらけの家穴だらけの家と答へたさうですから作つて見ては直し拵へては直しして疵だらけ穴だらけになる頃には住心地がよくなる筈とせうして見ると住宅建築をなす又難い哉と云はねばなりません。

今日迄の中流以上の住宅は日本屋と洋館とを組合せた注文が多いです此樣式は體裁も餘り感心せず和洋折衷ではない和洋混合です何時迄も此儘で進みたくはないから此過渡時代に處するにはどうしたらよからう私は外觀は全部洋式にして室内も階下の應接客室臺所浴室食堂倉庫等大體洋式にする寢室は全部二階に配置して和風疊敷の間を二階に幾間か取りたい此座敷は外壁に接する方に廊下を設け外壁内部は洋風にして入側より内を日本座敷にする此椽側が即ち和洋の緩衝地帶と成り先に述べた日本家屋の廻り椽の役目を勤むるに必要なる設備であります尙此外に階下洋風の客間や居間抔は室内の巾木を少し高くして腰羽目の框や笠木

を木にて拵へ鏡板の部分へ襖に用ゆる裂れか紙又は皮張りに少々綿を入れてフックリと張り其上部の壁は壁紙か色物の砂壁とし天井は杉柾板の網代張抔を用ひ床は疊床の上に敷物を一杯に敷いたなら柔かなフックリした居室が出來るであらうと思ふてチョイ〳〵試みつゝ來ました。

併し二階に日本座敷抔遺して置てはいつ迄も二重生活から免れる事は出來ぬ樣ではあるが外出は勿論日常の交際作業は洋服で洋室を用ひ一日の勤めを終り先づヤレ〳〵と云ふ時には寢卷と着換て座蒲團の上に足を投出してユックリしたいのである不斷着の一二枚や寢卷位の和服而も持合せの品を保存して居ても二重生活違反者と云ふ科でもあるまい西洋人だつて寢る迄脊廣やフロックを着ては居らぬ殊に居室は和室あり洋室ありと云ふ處に妙味があるので所謂氣が換つて頗る慰安を感ずるのであるさうすれば其日本座敷は寢臺無しに寢室ともなる彼の室の一方に押入の戸の無い樣な船のキャビンの樣な蠶棚然とした寢臺抔は小生大嫌ひである次に椅子なるものは事務室から應接室居間と段々低くする殊に此頃は住宅抔は椅子が段々低くなる傾向がある夫は低い程樂であるからである日本座敷の座蒲團の上に足を投出す事は最も樂の頂上ではなからうか此間の大阪毎日新聞の日曜附録に巴里邊では敷物の上に椅子なしに大きな蒲團を敷て足を投出して居るのが流行し出したとあつた今に日本では皆椅子に掛る西洋では椅子を廢して疊を敷く樣になるかも知れぬ故に日本座敷の一間や二間は遺して置く方が流行の魁かも知れぬ。

ドーセ人間の生活狀態と云ふものは一ヶ所に休止するものではないから從て住宅も安定を持續する譯には行かぬ殊に建築は社會改造の先驅を爲すものであるから二三十年も經過すれば樣式も構造も變化すべき筈で百年の計畫をするには及ばぬ樣にも思はれる。

扨以上の樣に色々考へて居る內に或處でアメリカから組立家屋を取寄せたから一覽せよとの御招待を得て直ちに拜見致しました是は又乍失禮甚だ殺風景なもので何もアメリカくんだりから取寄せる迄もない最も安い洋館を拵へよと普通の大工に

任せて勝手にやらせたらアンナものになるに相違ないと思ふ取寄せられた人も餘り感心はして居らぬ樣でありました加之存外高く付て居る日本で造る約倍額位の勘定になるさうですが極めて貧弱な薄ペラな感じのする吾々貧乏人でも自分の家としては迚も住む氣にはなれない慰安とか趣味とか云ふものは全然無視されたものであつた樣です米國もローザンゼルス邊の樣な氣候温暖四季花を斷たずと云ふ場所ならいざ知らず日本は中帶とは申せ夏は可成暑く冬は綿入の重着をする處あの薄き板壁（尤も二枚の板の間にフェルトを挾んである）とコケラ葺の屋根では寒暑を凌ぎ得るや否や日本の壁は泥土を用ひてあるし屋根瓦の下に葺土を使用し共に寒暑を防ぐには最も効能のあるものである殊に此組立家屋の窓は直接外壁に切明けられて居る故暑中抔は光線の室内に直射する事を覺悟せねばならぬ私が前に申した南洋の椰子樹の植物を其儘移植したのと同樣の結果に陷るものではないか一體日本人は何でも珍し物好きで外國の雜誌抔に組立家屋の廣告抔を見ると直夫れが欲しくなる住宅を建築しやうとする人は之を見て取寄せては如何と云ふ提案に接した事は是迄も再三あつたけれ共私は外國漫遊中米國邊で土地會社抔のバンガロー風の借家建を澤山見て來た是は組立家屋抔よりは餘程上等のものであるけれ共尚且日本の國民性や氣候風土に不適當である事抔諄々と說いて思ひ止まらせた事が度々ある此度取寄せた人も私の考へでは屹度素人の發案に驅られてやつて見たのであらうと思はれる何時ぞや讀んだ『趣味の建築』と云ふ書に（大熊博士著）日本人が住宅の設計を外國人に委托する人があるが其氣が知れぬ日本の國民性や生活習慣に暗い外人にどうして住心地の良い日本人の住宅が出來る筈がないと蓋し至言ではありませんか。

此頃は社會改造と云ふ基礎の上に立て隨分と思ひ切つた新しい試みがある樣です博士村とか住宅建物會社の建築とか澤山計畫されて居るから隨所に御名案が陳列されませう樂んで待つて居りますけれ共却々實現に暇取つて私の間に合ひませんので不得已自分の貧しい考を基礎として以下陳述

する樣な家が出來上りました。

一外觀は全部洋館にせり是は風雨寒暑盜難火災等に對しては洋館が比較的安全なると日本式雨戶の開閉と云ふ手數を幾分輕減したいからであります。

一階下は玄關取次室客間食堂臺所其他附屬一切洋式にせり是は住宅中の活動的部分に屬する場所であるから洋式を便利と考へました。

一二階は五間ありますが是は全部和風疊敷と致しました夫故洋館外部の窓は比較的横に廣く大きくして內に椽側を取り入側から內を全部和式座敷とし床の間も棚も押入も澤山に設けて此處が私の慰安の室安息の場所で寢轉びもする足も投出す夜は寢臺となるのであります尤も二階にも水屋を設け一寸した洗物位は出來る樣に致しました。

一燈火は電燈炊事浴場暖房は凡て瓦斯を用ひて居りますが須磨は今以て水道がありませんので不得已井水を四分の一馬力のモーターでポンプを回轉してタンクへ揚水し炊事場洗面所便所二階の水屋前後の庭園の撒水用等に分布して居ります。

扨て彼樣に出來上りましたので轉住して見た處が疊の敷てある部屋が自分共の居室と云ふ習慣に囚はれて居る家族共は一寸手が明けば直に二階の座敷に引込みたがるさうすると階下がガラ明きになる八百屋や肴屋抔が來た下女が一々二階迄注進にくる降て行かねばならぬと云ふ樣な苦情が多い二階の昇降に足が棒の樣になつたと云ふ仍で私は考へましたどうしても家族共の習慣が悪いからで家が悪いのではない乍併是を調節する爲階下に六疊敷の溜りを附屬させて食事の前後抔は此處に家族共が居る事にして晩餐後は洋室の居間に集りまして一家團欒の和樂に耽り成可く階下を利用して寢る時になつて二階に上ります三四ケ月の內に斯の習慣が付て子供抔は大に喜んで勵行して居ります。

朝起きると階下に降りまして食事を濟し階下を先に掃除する二階の方はユックリと後で出來るし二階に居ても一のベルが晩餐の通知二のベルが入

浴の通知と云ふ事にして夫を合圖に直ちに立上る事に極て居る　凡てが規則的に時間を勵行し得るので子女の頭にも時間の觀念を與へまして結局此頃では何の苦情も出ません處か却て親父が時々催促を受けるのであります尚此外に二階と女中部屋とに通話器を取付て置けば尚便利でありますから不日施行したいと思つて居りますし風呂も元は石炭を用ひて居ましたが此頃瓦斯に代へて見ると二時間以内位に入浴を終らねば瓦斯の消費料が大變嵩みますので入浴のベルが鳴るとドン〳〵入浴して仕舞ひますから早く片付ます電燈も成可く數を多く付けてスッチで明暗自在に致して置けば子供等迄がキチ〳〵開閉して而も節約を爲し得ると同時に規則的の習慣を馴致する利益があると思ひます。

尤以上の樣な間取になつたのは地面が細長くして其短い一邊が南向な爲階下丈けに南向の暖い部屋を澤山取ることが出來ず不得已主なる居間や寢臺を二階に致しましたのと二階が海を見晴して風景絶佳でありますから其處へ自分の部屋を取つた譯であります。

まあ兎も角も出來上りまして氣持良く住んで居りますが今になつては此處はこうしたらよかつたあゝしたらよかつたと思ふ處も少くはありません。

追々には利休の所謂疵だらけ穴だらけの家になるか？知れません乍併自分の建た自分の住居となると西行法師の歌に

いふせくもいさや吾家に歸りなむ
心やすさを思出にして

とありますから大抵の事は辛抱が出來ます此歌から考へましても住宅は氣安く心安く柔かに設計すべきもので餘り嚴しい堂々たるものは考物であります。左樣なら。



（研　究）

ポルトランドセメントの成分及び其硬化に伴ふ變化に就て（3）

工學博士　細木松之助

若し更に熱を加へて充分乾燥せしむる時は、遂に再び之を水中に置くも軟體とならざるに至るべし。尙ソルを乾燥せしめざるも、之に種々なる藥品殊に酸を加へて凝固せしむるを得べし。

石灰、珪酸、及び礬珪酸鹽、並に他の珪酸鹽類は、セメント及びモルタル中に存在する主要なる膠狀體にして、水硬性石灰及びモルタル中には、遊離石灰の存在するものなれ共、充分に燒かれて能く出來たるセメント中には、遊離石灰は存在すべからざるものなり。

遊離石灰がセメント又はモルタル中に存在する時は、其凝結をして遲緩ならしむ。即ち、稍緩硬性ならしむるものなり。其理由は、斯るセメント又はモルタルに水を加ふる時は、石灰の一部分は其水に溶解ぜられて、セメント又はモルタルの成分が加水作用によりて生ずるものと同一物なるを

以てなり。之れ斯る化學變化の生成物が最初より存在する時は、其存在なくして化學變化のみによりて生成せらるゝ場合よりは、化學平衡に近きを以て、此化學作用の進行速度を遲緩ならしむるものなればなり。然れ共、セメント又はモルタル中に、最初より存在する遊離石灰を以てセメント又はモルタルに、水の作用して初めて生ずる遊離石灰と混同せざらん事に注意すべし。

セメント又はモルタルに水を混合せざる以前より存在する膠狀珪酸は、常に少量にして、其由て來る原因は、窯内に於て、珪酸鹽若くは礬珪酸の分解するにありとす。

セメントモルタル及び其他の水硬性物體が凝結並に硬化するに變化は、ポルトランドセメントに於ける變化によりて觀察するを最も便利なりとす。是れ、其變化は、均等のものなるを以て、之より推定するを得べく、又ポルトランドセメント以外の水硬性物體は、頗る不純なるが故に、其研究を困難ならしむるを以てなり。

ポルトランドセメントは、前にも說明したる如く、礬珪酸カルシウムなる結晶狀成分を主とし、之に少量の硝子狀物體を混有せるものなり。

セメントの硬化したるものを研ぎて薄片とし、之を顯微鏡下に窺へば、其約半分は未だ變化せざるセメント粒が其儘存在して、殘餘の約半分は、膠狀體なる事を見るべし。而して、此膠狀體とセメント粒とを容易に識別するには、右の薄片をメセリンブルー若くはイオシンの如きアニリン染料の溶液を以て着色し、吸收せられざる染料を洗ひ去る時、膠狀體を、單に洗淨するのみにては、脫色し能はざる程度に染料を固着せしむるを以て顯微鏡にて見る時は、其着色により容易に之を識別し得るものなり。而して變化せずして存在せるセメント粒の分量は、セメントの粉末程度の如何によるものにして、微細なるだけに水の爲に變化を受け易きものなれ共、通常市場に販賣せらるゝセメントに在ては、其充分硬化したる後に於て尙變化を受けずして殘留せるセメント粒は、三十乃至五十ペルセントなりとす。

セメントの粉末程度が微細なればなるだけ、之

に混加し得べき砂の分量を多くして可なるべく、又其加水作用を受くることも完全なりとす。又セメント粒の加水作用を受けずして殘存せるものは其硬化に何等効力なきものにして、砂と同じく膠狀體の固まる核を爲すに過ぎざるものなり。此等の事實を知らざる人々は、セメントの硬化作用を說明する爲に種々奇怪なる理論を試みたるのみならず、一度硬化したるセメントも、再び之を細粉し、更に之に水を加ふる時は、幾回となく硬化するものなりと說明すれ共、顯微鏡を用ひて精細に之を研究したる所によれば、加水作用を受けずしてセメント粒の儘に殘存せるものゝ有る間は、硬化せるものを更に細粉し、水を加へて硬化せしめ得べくして、其幾回も之を繰返し得べき度數は、硬化する毎に加水作用を受くるセメントの量の多少によりて定まるものなり。而して、如何に微細に粉碎したるセメントと雖も、又最も注意して砂と混和したりと雖も、最初の一回にしてセメント粒が悉く加水作用を受けて、完全に變化し終るものなりとす。

水と結合して所謂加水作用を受けたる部分は、水の爲に分解作用を受けたるものにして、其變化によりて、遊離の水酸化カルシウム及びハイドロ珪酸鹽幷にハイドロ礬珪酸鹽等を生ずべし。而して、水は一方に於ては鹽基として、又他面には酸として作用し、セメントを分解して、石灰を遊離せしむるのみならず、膠狀珪酸、礬珪酸及び恐くは膠狀の珪酸カルシウムを遊離せしむべし。斯くて、遊離したる石灰は、其溶液中より、水酸化カルシウムと成りて結晶し、他の物体は、少時の間に膠狀体となるを以て、顯微鏡を以て仔細に之を觀察すれば、石灰の結晶するは比較的速かにして、殊に急硬セメントに於て然りとす。又是と同時に、他のセメント分解成生物も變化を起し、石灰の結晶するよりも緩徐なれ共、恰も、膠が水中に於て爲す如く、徐々に各自其固有の定形を失ひ次第に膨脹して、終には、透明なる膠狀体となるなり。然れ共、石灰は次第に遊離し來るに從ひ、徐々に膠狀体なるゼルに吸收せられて、膠狀体は次第に其密度と硬度とを增加すべし。

セメントに於ける水の作用は、曾に物理的のみにあらずして、又化學的にも作用するものなり。是れ、其凝結の際に生ずる溫度が、凝結の時間に大略反比例をなすを以て識るを得べし。故に、緩硬性セメントに在つては、極輕微なる溫度の上昇を見るに止まるものなり。然るに、斯の事實を滿足に說明するは、從來困難とする所なりしが、現今に在ては、此溫度の上昇即ち熱の發生は、元來遊離石灰を含有せざるセメント中の珪酸鹽中より遊離し來る石灰が、其瞬間に於て水と化合して生ずるものなり、との說を承認するに至れり。而して、其後に至り、第二次の熱の發生あるは、之れポルトランドセメントの主成分なる礬珪酸鹽（恐くはアリット）の、分子より遊離し來る石灰の水化作用に由るものなり。即ち、之を再說すれば、セメントに於ける水の作用は、先第一に、其硝子狀物体に働きて、凝結に伴ふ第一の發熱を生ずるを合理的とし、セメント中に於ける結晶狀物質即ちアリットの如きに對しては、其作用する事遲くして、硬化に伴ふ第二次の發熱を以て、此等結晶狀成分に於ける水の作用より起るものと見るを妥當とす。然りと雖も、セメントの硬化は、之を攻究する事其凝結を攻究するよりも難事なり。是れ硬化に際しては、硬化と共に凝結作用も同時に起るものなるを以てなり。

ポルトランドセメントの構造に就ては、學說未だ一定ならずして、或一部の學者は、礬土酸石灰と珪酸石灰の固溶体なりと主張し、セメントに於ける水の作用は、膠狀と結晶狀の礬土酸石灰と、膠狀幷に結晶狀水酸化カルシウム、及び膠狀の珪酸カルシウムの混合体を生ずるものなりと斷定す。然れ共、硬化せるセメント中に、結晶狀の水酸化カルシウムが存在することは、シャテリエール氏の發見する所なりと雖も、同氏の硬化說は、容易に承認すべきものにあらず。之れ、氏は、セメントの硬化を說明するに、珪酸三石灰のみに依りて、セメント中に存在する礬土は少しも之を顧みざるを以てなり。之に反して、セメントの主成分は、礬珪酸カルシウムなる點より推論すれば、廻轉竈にて燒きたる完全なるセメントに於ける水

の作用の結果は、大要下の如くなるべし。即ち、蠟珪酸鹽の分子は、加水作用を受けて分解し、水酸化カルシウムと、水酸根の多數入りたる蠟珪酸鹽とを生じ、此等は膠狀体なれ共、結晶狀に變ずることあるべし。而して、此等膠狀體は、徐々に酸水化カルシウムを吸收して硬化し、加ふるに、加水分解作用の結果として生じたる結晶體の縱横錯抱せるものゝ爲に、全體の强度を增大するものなり。

尙、オルト珪酸石灰がセメント中に存在すれば、同じく加水作用を受けて、水酸化カルシウム及び含水珪鹽酸を生ず。

$$2CaO.SiO_2+(x+1)H_2O=CaO.SiO_2.xH_2O+Ca(OH)_2$$

又蠟珪酸鹽に在ても、下の如き作用を受くべきものなるべし。

$$Ca_{32}K_2Al_6Si_{12}O_{70}+28H_2O=Ca_{16}H_{16}K_2Al_6Si_{12}O_{58}+20Ca(OH)_2$$

$$Ca_{45}Al_6Si_{15}O_{84}+36H_2O=Ca_{18}H_{18}Al_6Si_{15}O_{66}+27Ca(OH)_2$$

鐵酸鹽、蠟土酸鹽若くは鐵珪酸鹽が存在する場合に於ても、右の變化に均等なる加水分解を受け、其結果として、膠狀體を生じ、尙ほ、珪酸鹽の結晶によりて、錯抱の度を增進すべし。

故に、硬化したるセメントの强度の大部分は、加作水用によりて生じたる膠狀體、及び之に吸收せられたる水酸化カルシウムに依るものにして、結晶體によるものは僅少なりとす。之れ、硬化したるセメントを顯微鏡を以て檢すれば、膠狀體及び無定形物體が其大部分を占むるに反し、結晶體は、實に一少部分に過ぎざるを以てなり。

一部の化學者の唱ふる所によれば、硬化せるセメントの成分は、遊離石灰、珪酸及び蠟土にして凝結の初めは、蠟土鹽酸の加水作用にして、凝結の終りは、珪酸鹽の加水作用に因ると云へども、斯の說は、多くの事實と符合せず。素より、上記の物體が、硬化せるセメント及びモルタル中に存在することは事實なれ共、全體の强度を負擔する丈の量には達せざるべし。

又、セメント及びモルタルの硬化するは、遊離

石灰と珪酸の化合するによりて珪酸石灰の生ずるに因るとの説が、一時は信じられたれ共、砂即ち珪酸と石灰とは、常温度に於ては化合し能はざるものなれ共、火山灰及び類似の物料中に含有せらるゝ活動性蛮珪酸は、石灰と化合して硬き膠狀體を生ずるものなり。故に、往古の建築に使用せられたるモルタルの頗る堅き理由は、モルタルを造るに方り、煉瓦其他火山灰質の物を碎きて之を混和したるを以て、其内に含有せられたる活動性膠狀珪酸、蛮土、及び蛮珪酸等の硬化作用に由るものなり。

セメント及びモルタルに於ける炭酸の作用は、微弱にして、硬化作用の主因を成すものにあらざるなり。而して、其主なる作用は、先づ水酸化カルシウムに結合して、炭酸石灰を生ずること左式の如し。

$$Ca(OH)_2+CO_2=CaCO_3+H_2O$$

斯の如くに、炭酸と結合して炭酸石灰となれる丈の石灰分は、是以上の變化を生ぜざるを以て、斯の意味よりすれば、無用物と化し去りたるものなれ共、茲に生じたる炭酸石灰も、次第に結晶狀に化すべきを以て、其交錯により幾分の強度を增進することなしとせず。然れ共、強度と硬度を增進すべき主要部は、既に述べたる如く、混合體中に含有せらるゝ膠狀體にあるものなり。而して、炭酸の作用は、物體の表面にのみ極限せられたるものにして、數百千年を經過したる後と雖も、著しく内部に進入し居らざる事は、古建造物を檢査して之を證するを得るなり。

然れ共、或場合に於ては、セメントは幾分の炭酸を吸收するものにして、假令ば、セメントを風化せしむる際に、五ペルセント以下を吸收するものなり。而して、此吸收せられたる炭酸の量は、セメント中に存在せる遊離石灰の量に對適するものなり、との説が一時行はれしも、近時の研究によれば、完全に出來たるポルトランドセメントは、遊離石灰を含有せざるものにして、セメントが炭酸と作用して之を吸收する場分は、必ず水分の存在を必要とするものにして、水分の爲にセメントの一部が分解を起すに由るものなり。

セメントの極微細分子が最も速かに作用すべきを以て、充分に加水作用を生ずべき製品を得んとせば、相當の微細度の粉末とせざるべからず。然りと雖も、若し其粉末微細に過ぐる時は、加水作用を起すことの急速に失して、斯るセメントの强度は、却つて微弱となるべし。故に、斯る微細セメントに對しては、相當の緩和劑を加へて、其硬化作用を緩徐ならしむるを要す。（終）

◇◇請負人の注意すべき權利義務（上）

修身賛助會員　有山福重郎
辯護士　瀧本貢　編

立法より見たる請負は、設計監督は勿論、論文、書畫の揮毫、奏樂、唱歌、疾病の治療に至る迄凡て請負なり。

特に土木建築請負の注意すべき權利義務

法は日常生活の規矩にして諸般の事業に從事する者一として法の必要を感せざる者はないのであります、之れ即ち法治國民として洵に當然の所以であります。然るに世人の多くは今尚舊套の陋見を有して生兵法は大怪我の基てふ域より脫せず法律問題が起れば自家の利害休戚に關するものなるにも不拘之を專門家に托し生殺與奪の權を與へて顧みざるが如きは私の最も不本意とする所であります。而して既に時代は職業の分科を要求しつゝあるが故に法律問題も亦其專門家に委して可なるが如くでありますが、私は寧ろ其問題の惹起を未然に防ぐの意味に於て自家の職業に就き分業的法律理解の必要を高唱せんとするのであります。

近世文化の進運に依り都市計畫に伴ふ文化的生活を唱導する智識階級者多く從て私の職業も又刻々繁劇を加へんとする此秋に當りまして各其職業に就き法律的理解の有無は其便否利害の差、奈何許り大なるかを感ずる次第であります。

淺學菲才の私烏滸ケ間敷くも思を茲に致しまして舊友辯護士瀧本貢君に囑し先以て自己專業の請負契約論を草せしめたのであります。行文往々難解の點なきにあらざるも其所論に至りては獨斷を去り學理に拘泥せず專ら判例を主とし一般是認せられたる學說を以て補ひたる等周到なる研鑽は之

を信じて謬りなきと思料致します。唯人事の繁劇なる百般の請負事業に就き其解決の關鍵たるには量に於て乏しき感なき能はざるも庶幾本文を以て私等同志の伴侶ともならば敢て私の幸ひのみにあらざるを思ふのであります。（有山誌す）

第一章　請負の性質
第二章　請負人の權利
第三章　請負人の義務
第四章　請負の終了
第五章　請負に關する判例

第一章　請負の性質

民法第六百三十二條に「請負は當事者の一方か或仕事の完成することを約し相手方か其仕事の結果に對して之に報酬を與ふることを約するに依りて効力を生す」とあるのは法律の與へた請負の定義で分説すれば左の如く其性質が明瞭になる。

第一　契約である

即ち請負人が或る仕事を完成する事を承諾し注文者は之に對して報酬を支拂ことを約するに依つて成立するからである。

第二　仕事の完成を約す

（イ）仕事の種類は家屋の建築、修繕、物の製作の樣な有形的の製作物は勿論、物の運送、論文の作成、計算、測量、書畫の揮毫、奏樂、唱歌、彫刻疾病の治療等無形的の物もあり苟も人の体力、美術、科學、技藝の應用に依つて達する事を得べき結果は總べて請負の目的となり得べく其仕事が財産的價値を有すると否とは問はないのである。

（ロ）仕事の範圍は箇々の契約の內容に因つて定まる、家を建築することの全部が完成せらるべき仕事なることあり其一部が目的となることあり。

亦全部又は一部の家屋の倒壞が其目的たる場合が有つて仕事の範圍が箇々別々に定まるべきものである。

（ハ）仕事完成を約す

單に勞働する已なれば雇傭であつて請負ではない、請負は勞務を供して尙其上に仕事を完

成せしめなくてはならぬ、此仕事の完成と云ふことは請負の特徴である。

(ニ)仕事に補助者を使用しても差支ないか

特約のない場合は差支ない許りでなく全然他人に請負はしめても構はぬ、之は請負が仕事の完成を目的とするものたる結果勞務者が何人であろうとも仕事さへ出來上れば良いからである、故に東京控訴院の判例に「請負人の死亡は必ずしも當然に請負契約の消滅を來すものにあらず」として居る、但し請負人其人でなければ出來ない仕事例へば一定の美術品又は學術的研究を作出する場合は此原則の例外をなす。

第三　報酬の支拂を約す

(イ)無賃で物を製作してやるのは請負でない。

(ロ)報酬の種類は問はない金錢は勿論それ以外の物の給付、物の使用の許可、勞務の供給皆可なりである。

第四　賣渡請負とは何か

之は自分の材料で製作した物品を賣ることを目的とする契約である、物を賣ると云ふ點に於ては賣買に似て居るし、仕事を完成さすと云ふ點が請負と同樣である、そこで賣買說と請負說の議論が岐れる所以であるが、私は賣買と請負の混合契約であると云ふ說に左袒する、併し實際上の結果は何れの說を取つても同じである

第五　不規則請負とは何か

之は注文者が材料を供して物の製作を依賴した場合に請負人が其材料に代へて他の材料を使用し得べき特約の存する場合の請負である此場合品物が出來上つても直に其所有權が注文者に移轉しない、通常の場合と同樣に引渡を要するのである。

第六　作成物の所有權移轉時期

(イ)注文者の所有に屬する材料に就て請負人が工作を加へたるに止まる時。

例へば注文者の家屋に修繕を加へた場合の如し、此場合は終始其所有權は注文者に屬し移轉の問題は起らない、但反對說があつて此場合でも尙先づ加工の原則で請負人が所有權を

取得すると云ふ學説があるが問題にならない

（ロ）注文者が主たる材料を供したる場合

假令請負人が材料の一部を供した場合でも僅少に止まる時は主たる材料を供した注文者は附合の原則に依り作成物の所有權を取得する此場合加工の原則を適用して請負人が所有權を取得する場合があると云ふ學者もあるけれど有力でない。

注文者の供した材料が動産である場合には之に從として附合せしめられた動産は注文者の有に歸する事勿論であるが、注文者の所有土地上に請負人の材料を以て建築した場合は此原則には從はないのである、何となれば我民法上建物は獨立の不動産であつて之を土地の從たるものと認むる事が出來ぬからである。

（ハ）請負人が主要なる材料を供した場合

即ち注文者が供した材料が僅少な場合で例へば請負人の材料で靴を作らしむるに付注文者が釘を供した場合の樣な時である、此場合作成物の所有權は請負人に屬し請負人は更に之を注文者に移轉する事を要するのである、但當事者か豫め作成物の所有權を注文者に屬せしむべき旨約束して置いた場合は、品物完成と同時に其權利は注文者に移る。

（ニ）請負人が全部材料を供した場合

此場合仕事が完成すれは先づ請負人が其所有權を取得し、其權利移轉の意思表示があつて初めて注文者の物となる之が原則である。

但建物建築請負の場合に建築せられた建物の所有權が何時移轉するかに就ては、我民法上大いに議論がある。

第一説は建築完了の際當然注文者に權利が移轉すると解するのであるが之は普遍の論である、蓋し何等權利移轉の意思表示がなくして當然其建物の所有權を取得するものとは理論上實際上解することは出來ぬ、又之は注文者の地上に建物を建築する場合に克く起る問題である。前にも述べた樣に土地と建物とは別々であるから土地の所有權が誰にあらうとも建物の所有權の歸屬に就ては別問題である。

第二説は建物の引渡に依つて權利が注文者に移ると云ふ説である、之も悪い、何んとなれば此論者は建物の所有權移轉時期と後に述ぶる報酬の支拂時期を混同して居るのである、報酬は成程建物の引渡と同時に請求出來るのであるが、權利の移轉がそれと同時でなくともよい、引渡前に所有權移轉の意思表示をすれば、それで完全に該權利が注文者に移轉するも物の引渡は唯其報酬支拂時期に關係あるに過ぎないのである。

それで私は一派の論者と共に豫め作成物の所有權を注文者に屬せしむべき契約を爲した場合の外仕事完成後に所有權移轉の契約あるとを必要と信ずる、即ち特段の契約を要すと云ふ點にて第一説と異り、引渡を要しないと云ふ點にて第二説と相異す、但引渡しがあれば暗默の移轉契約があると見るが實際上の情態である、而して其所有權は請負人の所有權を承繼的に取得したものと解するが宜しい。

(ホ)第三者が仕事の材料を供したる場合

此場合は原則として第三者が權利を取得する但仕事に依つて著しく材料の價格が增加した場合には注文者が其權利を取得することになる、何となれば注文者は請負者を使役して其價格を增大せしめたものであるからである、併し請負人に對して報酬の支拂義務有るは勿論、第三者に對しては其材料の價格丈けの返還義務を免れず。

以上で請負の性質が明瞭になつたと思ふから、次に進んで請負人の權利義務を論じて見たい。

第二章　請負人の權利

請負人は報酬の支拂を求むる權利を有す、此權利は契約と同時に發生するものであるけれども其行使は辨濟期が來た事を必要とする、即ち仕事完成の時引渡を要する仕事に就ては引渡さなければ其行使が出來ない、學者が請負を目して後拂債務であると云ふのは報酬の支拂を受くるに引渡を要する事を言明した語である、但茲に注意すべき判例があつて仕事完成前に於て報酬債權の轉付を認め

て居る、之は請負人の報酬債權と云ふものは引渡を了さなければ行使が出來ないものゝ既に契約と同時に成立して居る事を證明するものである。

第一　報酬の前拂又は進行に應じ分割して支拂ふ可き特約が出來るか。

勿論出來る、此報酬に關する規定は强行規定でなくて任意規定だから當事者の意志表示でどうでも變更が出來る。

第二　建物の建築を請負つた場合に引渡前に燒けたら報酬請求權はどうなるか。

(イ)注文者が材料を供した場合は注文者が材料を損する代りに請負人の報酬債權も消滅する

(ロ)請負人が材料を供する場合には製作中に火災が生じた場合は請負人は報請酬求權を失ふべく、仕事完成後引渡前に履行不能を生じた場合には其責任は注文者に歸屬す。

(ハ)注文者側の過失で家が滅失毀損した場合、此場合勿論請負人の報酬請求權に影響がない

(ニ)注文者が引取を遲れた場合家が燒けたとして個人の損害になるか。

これは(ニ)に述べた樣に注文者が其責任に任せざるを得ない。

第三　請負人は同時履行の抗辯權を有するか。

つまり報酬を支拂はなければ建物を引渡さぬと云ふ事が出來るかどうか私は出來ると信ずる、それは民法第六百三十三條に「報酬は仕事の目的物の引渡しと同時に與ふる事を要す」と規定されて居るからである、又反對に注文者の方でも仕事が出來上らない前に報酬を支拂ふ事を要しない、約り物品と引替へに報酬を支拂へばよろしい、但前に述べた樣に特約が有つた場合例へば棟上したら何程といふ風に分割前拂の約があれば注文者は其契約通にしなければならぬのは當然である。

第四　請負人は留置權を有するか。

これ疑ひなく請負人が有する、其結果報酬の支拂を受けない間は啻に注文者のみならず何人に對しても仕事の目的物の引渡を拒絶する事が出來るのである。(つゞく)



將來の『市加古市』(14)

ウオルター・デイ・ムウデイ著
Z Y 生 譯

第十一章 市加古人と市加古の事物 最大の計畫案の搖籃 (2)

(一) (つゞき)

イリノイス州の知事ロウデンは千九百八十年七月廿一日エバンストンに於けるスウデン舊人民除隊の宴會席上で以下の如く語つてゐる。

諸人種を融和することによつてデモクラシイはアウトクラシイ(專制主義)を打破するであらう。而して戰後永遠の平和は世界を支配し得る。……今朝偶然にも自分は目錄を調査したがイリノイス州からこの慶賀す可き不朽の記錄の中に十名の姓名が記載しあり、而してその十名は七個の國民を代表してゐる。その目錄を覽た時に私は信じた、我人民が一個の人民一個の國民に强固に結合せられずとの前兆が、縱し過去ありたりとも、七個の生國たる國民を代表するこの十名の愛國者の不朽の記錄は過去の前兆を

して永遠に沈默さしてしまふであらう。

その後市俄古市の英雄等の不慮の不祥事が傳はつた時にもホノル・ロルは右に知事ロウデンが言つた意見が誤つてゐると訂正もしなかつた。受取つた各目次には我國家のために生命を賭した處の外國種の市俄古市民の、愛國心と比例とが示されてゐる。この比例を見るにいつでも彼等は大多數を占めてゐる。

外國生れの市俄古市民が、大戰のために非常な忠誠と熱中とを示した他の證據は、又彼等は良市民の中に入るべきものたることを、何物にも勝つて雄辯に彼等のために辯護してゐる證據は、以下の事實が物語つてゐる。第三自由公債の場合、市俄古市に割當てられた全應募額一億五千萬弗に對して廿一個の國民を含む外國生れの市民區域から應募した額二千百萬弗であつた。市俄古市の大なる財産は、合衆國の他の部分に於ける如く、歸化市民の手中には無いといふ事實を記憶すれば、右の如く外國種の市民の現した行動は、意義あることである。

メレデイス・ニコルソンの物語である『市俄古市』、之は千九百十八年の初春スクリブナース雜誌に揭載せられたものであるが、該問題を眞實の注意と眞の幻影、美しい同情とをもつて取扱つてゐる、これ程良く市俄古市を記述したものを讀んだ事はない。そして彼の監察と私の監察とがいかにもピツタリと符合してゐるので驚いてしまつた。私はニコルソンに許した、彼は文學者であると。私は編輯者である。もつとも市俄古市の生活と發展の或重要な方面に一層の時を費さなかつたことはよくない。彼の監察は或重要な根本點に於て不完全であり、細目の點に不注意である。自分のものも又同じ筆法の槍玉にあげらる可きものであり、且つ細目の點はもつと良心がなければならぬと批評さるべきものではある。

極めて簡單に一句をもつて市俄古市を描くことが出來る、『市俄古市は全世界中の大都市の歷史中最も戲曲的な産出物である』と、市俄古市はこういふものである。八十年間の短期間に、一箇の邊境の植民地から世界第五の都市に進歩したことを。こ

の簡單な句が最も好へ報道せられた、又熱心に述べられたどの言葉にも勝つて、その眞理を圖解的に傳へてゐる。以下の事實を考ふればこの驚く可き事實のローマンスを、最も諒解することが出來る。即ち市俄古市がインデイヤンの交易場であつて、一人の白人も居住しなかつた時代に、ミシガン湖の一島マツキナックから屋根もない橇で漕ぐボートに乘つて、千八百十八年にこゝにおぼつかない歩みを始めた市俄古の一住民が、千八百九十三年の世界コロンビヤ博覽會の會場敷地に選ばれた位置を見る迄に生きのびて居た。確に此人こそ國の歷史の「二の期間の裂罅を渡す生ける橋梁」——箇原始的野蠻時代と最高文明の力強き發展との間——たる處の、世界歷史中の唯一の人でなくてはならぬ。

市俄古市では百四十六箇の商館が、五十年以上も存在してゐた。その中の或商館の如きは千八百卅七年の市の編成時代に設けられたものもある。今市には千九百十八年、時に市の人口二萬八千二百六十九人に過ぎなかつた時代以來、當市に居住せる舊き住民が三百十七名ある。又市の人口四千四百七十九人に過ぎなかつた時代以來の居住者は四十九名ある。千九百十七年に當市に移住し、千八百三十七年市に編成されて以來、當市に今も尙は居住せる者は、十八名ある。最も古い居住者は千八百廿七年以來の居住者である。

八十年前市俄古市が一箇の村制を布いた時に、ニユー・ヨルクは殆ど建設以來二百年を經過してゐた。パリーは千五百四十五年、ベルリンは八百年、ロンドンは二千年の年齡であつた。

百九十四年前市俄古市が、市としての憲章を有するに至つた時、ニユーヨルク市は十八ケ國の異つた國語を用ふる五百名の住民を有してゐた。百八十四年前市俄古市が五千の人口よりも少き人口で一個の市となつた時に、ニユーヨルク（當時ニユーアムステルダムと稱す）は一個の市としての憲章を有するに至つた。百七十六年前市俄古市が都市としての時代の曉をあふぐ時代に、ニユー・ヨルク市は人口一千であつた。而して卅年前我市としては是を人間にたとふれば漸く齒の生ずる時

代に、ニューヨルク市は、南北兩街路を百呎丈け擴張することを推薦する街路委員會の、委員の姓名の中には、米國獨立宣言の署名者の姓名が見ゐてゐた。この委員會は公衆改善の爲の勸告者となつた。而して今日世界第五位の大都市なる我市が何故にこの大都市計畫を實行すべく急がねばならぬかといふことを、民衆に示すために用ひてゐる論法は、當時ニューヨルクにて民衆をして實行せしむべく用ひた論法と同一である。即ち該委員等は當時五萬の人口を有してゐた(千八百七年)ニューヨルクは、五十年後四十萬の人口となるであらうと言つてゐた。

(二)

市俄古市が漸く歩く稽古をし出した時には、現在の歐洲の諸都市は既に大都市となつてゐた。

ベルリンはコーリンとベルリンの二都市を融合せしめて、市俄古市の生るゝ八百年前に一市を造つてゐた。然るに市俄古市が搖籃の中に搖られ始めた時、即ち百八十七年前には、市俄古市が搖籃の中にもつて居たと同數の人口の二倍が、ベルリンの人口となつてゐた。又毋たる市俄古市とその子等なる都邑とが、漸次に成長し始めた時には、ベルリンは五十萬人の人口であつた。

パリー市は米國發見前既に舊き巨大なる都市となつてゐた。市俄古市がスプリングフヰルドにて市の憲法を制定した時には、この佛國の首都は、殆ど百萬の人口をもつてゐた。

ロンドン!、いつの時代にこの世界の大都市は眼を開いたかを知る者がない。紀元四十六年だと言ふ者もある。この大英帝國の首都の、權威ある歷史は、凡そ第六世紀の中半から始まつてゐる。その頃の人口には、市俄古市が生れた時の人口と同數であつた—即ち市俄古市が生るゝ六百卅八年前である。而して市俄古市が世界の都市の舞臺に上る前、百七十六年には五十萬の人口の都市となり、市俄古市が生るゝ時には殆ど二百萬の人口となり、千九百十年になつては、市俄古市もロンドンの人口と同數になつてゐる。

市俄古市が米國の諸都市の、仲間入りをした時に、この近世生活の根本的本質をなす多くのもの

の科學による夥しき利便を與ふる處の近世世界進歩の第一歩を踏出してゐた。

たとへばその（米國都市の仲間入りを市俄古市がする）十二年前にブッファローからニユーヨルクに至るエリイ運河が開通した。織機、莫大小機械が發明された。鐵製のペンが用ひられ始めた。齒科醫の最初の會合がニユーヨルクに開催され、最初の齒科專門學校がバルチモーアに開校せられた。フールトンの蒸氣船がハドソン河を、あつちら、こつちら上り下りし始めた。市俄古市が一個の體形を備へ始めた時に、更に大なる發明である電信が發明され、七年後となつて、バルチモーアワシントン間に、第一の音づれが交はされた。その時には市俄古市は一萬の人口であつた。

最初の大西洋海底電線が布設せられ、最初の電線が架設せられた時には、市俄古市は未だ卅七歳の年齡にすぎなかつた。又プウルマン式寢臺車が發明された時は卅歳、最初のタイプライターが使用され始めた時は卅三歳であつた。白人が市俄古市に足をふんまへる前に、獨立の爲の戰爭を二回やつた。市俄古市が杙を打つて市の地點を定めた時に、合衆國の人口は千七百萬人であつた。而して市俄古市が地圖に一點を打たるゝ前に、合衆國の鐵道線路は五千哩であつた。

今や市俄古市は世界第五位の都市となつてゐるその面積百九十八平方哩。街路小路總計四千六百八十五哩中、鋪床街路二千七十九哩を有してゐる（ロードアイルランド全州の國道全哩數の二倍デラウアー州の全國道哩數の半に相當す）水道、下水道延長哩數五千哩に達してゐる（ミスシッピイミッソリイ兩河の長さの合計よりも五分の一程長くなつてゐる）市の境界の周圍の鐵道線路の延長數二千七百七十七哩に達してゐる（大西洋岸より太平洋岸に達する哩數に相當す）電車線路の延長數千三百五十五哩。實にあるゆる時代の驚異たる偉觀である。都市歷史中にあつて最も戲劇的の情緒のある—少數の開拓者等から、その頃の住民が尙ほ生存してゐる時の間に、二百五十萬の人口に增加した—市俄古市の發展は、論理學者にして帝國の建設者たる故ゼェムス・ゼェ・ミルが、大西

洋沿岸の住民が二千萬人に達する頃には、市俄古市は世界の大都市となるであらう、と豫言したことがある。

（三）

いづれの都市でも都市が偉大になるためには、最も重要なる三つの要素が貢献してゐるが、市俄古市もその點は豊なる祝福を受けてゐる。その要素の第一は貿易商業の發展し得るやうに、その周圍に豊饒な土地と夥しき人口の廣大な範圍を控へてゐることである。第二は食物、家屋、工業用の材料の供給を手近から仰ぎ得る利便。第三に商業を容易に又物品を廉價ならしむる鐵道及び水利上の運輸の、容易にして利便なるよ、これである。市俄古市の周圍に横はる廣大なる地域の富と資源とは、學校の兒童と雖知る處である。南、西、北西の大平原からは、玉蜀黍、麥、オートミルを産出し、インヂヤナとイリノイスの鑛山からは廉價にして夥しい石炭を出し、ミシガンとミネソタからは銅鐵を出し、ミツソリイとウヰスコンシンからは亞鉛を出し、ミシガンからは野菜類を出してゐる、周圍のあらゆる方面から、様々あらゆる類の食物を供給してゐるのである。又市の西端から石を無限に供給してゐるが、此石は粉碎し、市中の製造場の供給するセメントと混合し、これから耐久力あるコンクリートの廉價な家屋を我等に供給してくれてゐる。煉瓦は市の周圍から出る土をもつていくらでも製造が出來る。木材は北の森林から、湖水を渡つて來る。建築用の鋼材は北の鑛山からの水力によつて鐵から製造する。最後に運輸の便に至つては、市俄古市は既に世界最大の鐵道中心である。二重の鋼鐵々道線路があらゆる方面に分岐し、一方は大西洋に向ひ一方は太平洋に向つて走り、ミスシツピイ河をふちどつてメキシコ灣に達してゐる。この鐵道は市俄古の貿易を年々增加せしめて居る。壯麗巨大なる汽船は、我河に出入し、我港より湖、河を幾百哩も航し重荷を運んでゐる。而して今や市は水利による運輸の新發展の階段に踏み上らんとしてゐる。イリノイス州の人民は州を横斷せる水利による商業の發展に着手するため、ミスシツピイ河とメキシコ灣とに

處々の湖水を連接せんと欲し、排水運河とイリノイス河とをもつて、その實行に着手するため二千萬弗の支出を可決した。

ずつと昔には商業盛に人口の夥多なる地方は、亞細亞歐羅巴であつた。その後この運動は確實に漸次西歐羅巴に移り、更にその後大西洋を超えて合衆國に移り、運輸上の容易迅速（中繼鐵道の）の發展にしたがつて、人口も商業も益々榮えて來た今日の合衆國のそれの如く、初め歐洲の諸國が發展した時分には先づ海港の都市が榮えた。鐵道の時代となるに從つて海港市から陸地の内部に發展してそこに諸都市が生ずるに至つたのである。大陸内部の諸都市が繁榮して大都市となるは時の問題であつた。この事實の眞僞の最も簡單な證據を求むるならば、舊き國々の發展の歷史を讀めば可い。

米全國の鐵道總哩數廿七萬哩の中四十三パーセント若しくは九千六百哩が、米大陸のあらゆる部分から市俄古市に集り來つて居る。鐵道幹線路はアリゾナ、デレワレ、アイダホ、マイチ、マリランド、マサチュセッツ、ニユー・ハンプシヤイヤー、オレゴン、アイルランド、ベルモント、コンチクチカッツ等の何れの州よりもヨリ以上の數をもつてゐる。千七百箇の轉轍機が、貨車客車の集散場廣場に用ひられ、四萬の貨車が日々使用されてある。以上は市俄古市の面目の一部分を語つたのみであるが、夫等の動かす可からざる事實の光に照して考ふれば、勇氣ある人は必らずこれ等に根據して、市加古市は遠からず合衆國中の最大の都市となるであらう、と斷言するに相違ない。

（四）

米國諸都市中、否世界の諸都市中市加古市程、その市民に、市を愛する心、市に熱中する心を鼓吹したる市はない。八十年の歷史の中に四回、市は市に對するこの全心を籠めし熱中の狀態を世界に示した。六十年前に、即ち大なる機械上の功業の時代となる前、市加古市の勇氣が始めて證明され、市加古市の精神が初めて喚起された。市街の排水をなすことによつて、全市の平準を高め得ることは明である。併しそれは法外に困難な仕事で

ある。何故なればそれは全市街と凡ての建築物とを、河から十二市街の高さ迄擧げることになるからである。國民驚異の眼の前に市加古市はその業を成就した。その時代にあつては、今日の市加古市を都市計畫案の全部を實行するよりも困難なる時代なのである。第二の偉大なる事業は五十年前に遂行された。市の周圍に擴がつて居る諸公園の脈絡を設け改善するのである。而してこの企も、市が必要あつてやつたことでなく、市加古市をして更に引着力ある市たらしむべく、市民自らが着手したのである。その後ミシガン湖の水を清澄ならしむる必要が起つた。市加古は再び立ち、六千萬弗の費用支出を可決した。これ排水運河を開鑿すると同一の難事業であつて、幾年もの月日を要する仕事である。更にその後となつて世界的の博覽會が當市に設けらるゝことゝなつて、市はその範圍に於ても建築上の美に於ても、他に勝るものなき事業を成就した。土地と建物とに二千萬弗を投じたといふ一事は、その頃の文化的精神にとりては他に竣鴛するもの もなき程の大事業である。

市加古精神—決行的精神(Built Spirit)—に就ては他に書す可き多くのものがある。市加古市に於ける文化的組織事業が頂上に達したる時、著名なる紐育の雜誌記者が私に質問した、市加古精神はいかに說明し得るか、又それは何であるかと。第一の質問に對しては「市の潛勢力」と答へ、第二に對しては「市加古人の性格」と答へた。更に彼は「それを說き明してくれ」と言つた。私は答へて以下の如く言つた。第一市加古市の精神は極東の極端なる保守主義と極西の熱心とを中和したものである。第二にそれは潛勢力の發現である。潛勢力は市の隅々迄も浸潤してゐる。それは凡ての市民の根底にしつかりと横はり、又新に市に流入せる者には接樹してその精神を植つける。凡ての新しいエルドヲーレーイドオ(西班牙の小說にある黃金國)に語られてある希望と信仰との感情がこの市にもいたる處に現はれてゐる。これ畢竟市加古市の位置、米國の中央に位して、その濶大な比類なき運輸上の利便に原因することである。更にこれ等の原因が、コスモポリタン的の市民の種類によつて助長

されてある。第三、市加古市の實務家は、皆繁榮積極的である、彼等は己の市を信じ、未來に於ける大なる可能性の發揮を看取し認識してゐる。且つ現在の市に對する信任は非常なもので、動搖させることの出來ぬものがある。彼等は仕事に對する困難なる仕事に對する能力を有し、組織を信ずる彼等は共に潛ぎ共に働き、且つかくすることによつて、市を助け得るのみでなく、彼等自身をも富まし得ることを、十分に諒解してゐる。

（五）

市加古の氣候も亦、我等の多くが實現するよりもヨリ多く此の市の精神を實現してゐる。氣候は爽快である。平均して言へば良く中和的である、盛夏にも極寒にも。旅行家の階級—彼等の望む如く安樂を求めて移動する—夏中も冬期の大部分も市に留つて過す。市の一流の實務家の休暇時期とも言ふ可き季節は、三月の中旬から四月の下旬迄である。氣候が電光的に急劇に又極端に變化する—市加古市がさうであるが—ことも、利益がないことはない。季節によつて寒暖計が廿四時間の中に四十度又はそれ以上に變化することは尠くない。大抵の人の信じて居ることゝは異つて、實はこの急劇的の變化も、民衆の健康を保ち、疲れたる神經に強壯劑の如き働をする。或神經疾患を治療するには脊柱にそふた神經中樞に熱と冷との刺劇的藥劑を交互にあてる方法によつてゐる普通の方法は、患者をして胃のあたりから、身體を前に屈せしめ、氷の一片をもつて脊中を上下になでゝ、それから直に熱湯にしたした厚いフランネルを折つたものをあてる。患者は忽ちこれに反應してくるこれ實驗によつて確認され居る方法である。

死亡率も又下り、一九一七年には一千人に對し一四・九三の割合である。一八九一年以來、毎年千人に對し十人宛減少してゐる。ヒラデルヒヤ、セント・ルイス、ボストン、クリーブランド、バルチモーア、ピッツブルグより以下である。一九一八年の世界的の流行性感冒流行の際、中央政府の調査に據れば、當市は他のいづれの大都市よりも死亡率が低くなつてゐる。

市加古市は、自ら足るを知つて安んぜる非利己

的の家族が住んで居る。「ホーム」又は「チィボア」などゝいふ言葉の意味が尚ほ失はれずに理解されて居る。公衆の健康良く榮へ居るは、市全體に亘つてゐある。自分は市に國民の公の利益のために存在せる三つの大なる機關的組織の活動を、己の活動として、十一年間暮して來たが、此際米國中の文化的機關組織の全體を一わたり研究するに便宜なる機會を有してゐた。かゝる努力によつて、自分が親く得た智識からの結論は、市加古市程の組織的精神を有せる市は、米國中に否な世界中に無いと言ふことである。特別なる機關的組織なくしては、貿易も企業も職業もない。幾百と存在するかゝる協力機關は市の活動の分岐として、それ〴〵の方面に活動して居るのであるが、最高にして最も有効なる能力を發揮する要素を代表するものである。彼等團體は智識を追求するのみでなく團體生活と團體の必要に於ける有効なる位置を占めて居る。

それ等の機關組織の中の或一つが、代表的のものとして自分の記憶に上つてゐる。それは皮帶商協會である。或時その團體の事務協議の行はるゝランチェオンの際、一場の演說を求められた。四十人足らずの會員が參集した、ランチェオンの時に私は會頭に言つた、「これは私を驚かせた自分は皮帶商賣に就ては門外漢であるがこういふ機關的組織を設ける程には、當市に皮帶商は多くはないと想像してゐる」「會員は幾人ありますか?」「七十五名です、だがこれで市の皮帶商全部ではありません、全部數へると百名はありませう」「この機關は何の目的で設けてあるのです?」「同業者間相互の利益をはかるために組織したのです、自分等は協力することによつて、實質的に我等の實務の能率を增進しております、度々集會して、出來る丈け速かに我等の事務を敏活にして居ります、これは我等個人を廣くし、良市民たらしめ、良實務家たらしめます」。（つゞく）

◇　◇　◇　◇　◇



「住宅」

住宅研究（四）

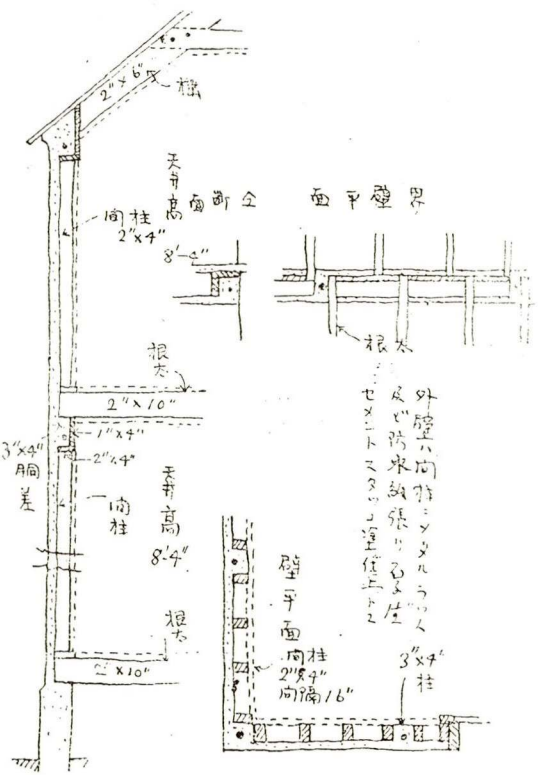
會員 建築工學士 葛野壯一郎

（本誌第四輯第參號より續く）

口 安全

住宅は生命財産を托するところであるから、其構造が堅固で、安心して住めるものでなければならぬ事は申す迄もないが、一面に於ては工費の低廉と瞹着するような場合があるから、つとめて經濟的にして安全な構造の工夫を要するのである。由來、日本の住居は一般に甚だ薄弱である。建物として最大切な基礎工事の如き、全然度外視されて居る結果、建つて一兩年も經過しない内に、非常な狂いを生ずる、ゆがむ、ねじれる、傾く、一般貸家及普通住居はみな此類である。少し大きな風でも吹く夜は、二階抔では到底安眠が出來ない種類のものが多く、有名な地震國でありながら、甚だ非耐震的である。柱に對する荷重の不平均の著しい事も其欠點の一つならば、凡てが素地で塗料を施さない結果、腐朽を早める事も研究の餘地

がある。元來が木材國であつただけに、凡て木材を贅澤に使ひ慣れた嫌いがあるが、今後は今少し科學的に其節約を圖りたいものだと思ふ。住居に對する鐵筋コンクリートの應用の如きも、我邦には今後必要な研究の一つだと信ずる。都市の住宅建築を、準耐火、或は耐火的のものに改造する事は、經濟上から云つても、今後益々大切な仕事だらうと思ふ。木で造らなければ家で無い樣な感じ即ち木材に對する執着が、餘りに深かすぎはしないかと思はるゝのである木材の柾目や杢目やに對する觀賞も、一應道理ではあるが其度を過すと寧ろ意義をなさぬ事が多いのみならず、事實無意味な工費を徒消することになるのである。洋風の大壁構造も、現在では一般に用ゐて居るには居るが、我風土氣候に對しては餘り適合した構造とは信ぜられない。寧ろ在來の眞壁構造の方が、より簡單で經濟で、一層衛生上の點から



も優れて居る樣に思はれるのであるから、今後の壁體構造の出發點は、此方から進めて行くのが宜いと思ふ。モニエの鐵筋コンクリートスラブの創

案も、我竹の小舞壁から云へば、古代から吾々の國では其原理は應用せられて居た譯である。

第十三圖に示すものは、米國紐育の建築家イージー、ペロット氏の考案で、柱胴差、桁の類を簡單な鐵筋コンクリートとし、間柱を假枠代用に使用し、是れにメタルラッスを張りセメントスタッコ塗りとして居る、至極面白い手輕な考案である。主として廉い勞働者向の長屋建に、應用する目的で造られた考案ではあるが、是を一般住居のに應用しても頗る便利で、且つ相當堅固な宜いものであると思ふ。米國風の住居は、殆んど一般にシングル即ち板葺屋根である結果、非常に輕くて、小屋組の如き、頗る簡單な椎木とつなぎ貫即ちカラービームで出來て居る。吾が郊外住宅の如きも屋根葺材料にもつと輕いものを應用する事につとめたならば、家は現在よりは遙かに安價に出來るのではなからうか。

木材の腐朽に就ては、是は一般木造建築に關することではあるが、住宅が最多く木材を使用する關係上、且亦充分考慮す可き大切な事である。木が腐るといふ事には、種々の原因や狀態はあるが其何れにしても、空氣中の菌類が附着して發育するに適當な温度と濕度によつて、組織を分解する事が即ち腐朽である。故に出來るだけ其發育の便利を避け、直接に雨や水氣を遠ざける事が大切で風通しをよくする事も亦必要な事である。由來我住宅建築が、軒や廂の深く出來て居るのは一理ある事で、洋風建築は全然是れと反對に、殆んど全壁面が雨に打たれるばかりでなく、地上から濕氣を呼び上けるにも都合がよく、床下に通氣の如きも甚だ不充分なものが多い。出來て間の無い新らしい樣式の洋風建が、雨に見苦しくよごれた例は到る處にあるが、是れは單に觀たところばかりでなく、保存上にも面白くない事は勿論である。

元來我邦の氣候は、菌類の發育に頗る都合よく出來て居る事を、注意しなければならぬ。卽ち温度と濕度の關係が、歐米諸國とは異つて居る。温度と濕度が常に同樣なカーブをとつて進む、卽ち温度の高い七八月に、濕度も亦同じく昂騰するのであるが、西洋の方は全く反對である。倫敦では

六七月は濕度の最低い時であつて、最暑い時に空氣が燥いて居り温度高まつて濕度下るのである。伯林や巴里に於ても、同樣の結果が觀られ、米國紐育やワシントンの如きも多少の相異はあるが、大體に於て歐州に近い。斯の現象は我邦が夏季に世界何れの文明國に比しても、菌の發育の都合のよい邦柄であるといふ事を證明するので、木材を最多く使用する構造物に對しては、甚深の研究を要するのであるが、從來餘り开慶方には、注意がされて居らぬ樣に見える。凡て安全堅固といふ事には永久の保存といふ事も含まれねばならぬ。少し年月を經ると、スグ土臺が腐つたり、また柱の根繼が必要では困る。最恐る可き白蟻の如きも、やはり濕氣の有る處に好んで繁殖するのである。白蟻が巢立をする時季は、殆うど五六月の雨の多い時分である。餘程注意した構造でも、多少の蟻害は免れないのであるから、斯の點は特に注意を要するのである。（未完）

二百二十餘年前に於ける外國人の日本觀

ケンルペは（獨逸人）、日本の人口の多き事に驚き、都市町村の發達を賞歎して居り、江戸の如きは自分が見た最大の都で、品川から乘出して、緩々端から端までを騎馬で行つたが、殆んど一日掛の仕事であつたと云つて居る。日本の氣候は溫和で、實に結構な國である。南方の暑熱もなく、極北の寒冷もなく、北緯三四十度の間にあるから、これ程愉快に心持のよい事はなく、又甚だ豊饒である。成る程山地が多くて磽确の地も無きにしもあらずであるが、これが却つて國民の爲には天惠であつて、國民は之によつて大奮發して、勞働勤勉する風を造り得たのである。日本人程よく天照産を利用するものは無い、とほめてゐる。



〔講壇〕

歐米の住宅問題に就いて（上）

名譽賛助員
工學博士　直木倫太郎

（一）

今晩は專門家である諸君の前に、門外漢の私が住宅問題に就いて御話するのは甚だ烏滸がましい次第でありまするが、私は最近歐米各國の狀態を視察致しましたので、聊か見聞致しました所を諸君に御話申上げる次第でありまして、多少亦詳細に亘つて、一二新らしい點を御紹介致すことが出來ますれば、諸君の御參考になることであり、たま〳〵外國の書物を御讀になりますとき、御參考になる事ともなれば、仕合せであります、今晩はエンヂニアーとして御互の利益ある會合でありますから、氣樂に御淸聽あらんことを希望いたします。

私は丁度去年の四月に橫濱を出立致しましたがたま〳〵六月始めより倫敦に於て　Interalliud

Housing Conpess（國際住宅會議）が開かれるといふことを聞きまして、これに出席する積りで急いで參りましたのですが、紐育で船の都合が悪く、とう〳〵七月の初めに到着しましたので、右の會議に列席することが出來ませんでした、止むなく會議の內容を新聞で取調べ、又會議へ出席されました人々にも聞合せまして、茲に御話の材料を得たのであります。

そも〳〵此國際住宅會議は民間の會合でありまして、National House of Townplaning Conpess の主催に係かる處のもので民間の會合でありますけれども、各國政府とも、多大の注意を拂ふ處のものであります、總理大臣ロイド●ジョージ氏は名譽會長であり衞生大臣のドクター●アデソン氏が議長であり佛國からも衞生大臣が出席する、西班牙からは二十三人も參列する、諾威からは五十三人も出席するといふ風で、支那の大使館からも參加した樣な譯でありますが、日本の大使館では甚だ冷淡な態度を執つて居りました、外務省では民間の會合だといふので、莫迦にして人を遣らなかつたのであります、乍併此會合は民間の會合であつても其決議の大要は會長から、皇帝陛下に報告せられ陛下は特に勅語を御下しになり御希望を述べられたのであります、又英國以外から集まつた人々には時に英國の田園都市を見物させたり、倫敦の住宅施設を巡覽させたり、却々大切な會合であつたのであります、幸に私等四人連で日本からの代表者として遲れ走せながら其特別委員會に參加いたした次第であります。

（二）

扨て當時の研究題目は次の諸項であります、

一、各國の住宅問題は如何に研究されつゝあるか如何に進行しつゝあるか、各國の報告を一々聽取すること。

二、今後二十年を期して各人に愉快なる獨立の家庭を與へたい、夫れにつき各國の狀況は什うであるか。

三、各自に愉快なる家庭を保たしむる爲めには最

低減度の住宅を準備しなければならぬ其用意如何。――これ大切なる問題である。

四、新しい各國の住宅の標準如何、樣式如何、材料の研究如何。

五、都市計畫事業の經過進歩の狀況如何。

以上の諸項に分ちて夫々各國の各方面の專門家が一々報告演說があつたのであります、尤も獨逸と墺太利と米國とは正式の參列者がありませんでしたが、合計二十五ヶ國の代表者が參集いたしたのであります。

扨て當日の經過を御報告しますと、第一に衛生大臣のアジソン氏は立ちまして、英國に於ける住宅問題の經過を述べ、殊に一八〇七年初めて住宅條例發布以降の狀況を陳述し、次に英國の現狀に言及し、更らに一九一九年の住宅令の說明があり尙（昨年の）五月末迄に六千萬坪の面積を住宅地に提供して一萬八千七百個の家屋を設計し、就中一萬箇は既に請負に附した事情を述べ、更らに進んで其家は標準程度を高尙にし、長屋造を止めて各自獨立家屋を領有せしむる方針に改め、趣味の向上を圖り、土地は一エーカアに十人割の程度に止めんとする計畫を說明し、尙目下之れが宣傳を徹底せしむる爲めに努力してあることを報告されたのでありました。

次に此度は佛國の衛生大臣が立ち、英國の現狀殊に英人の努力研究を稱讃し、佛國亦本問題に注目しつゝある事を述べ、佛は既に「安價住宅」に對する研究會合も四百五十三に達する點、並びに之れが指導に努力する役所が六十三も設立され、相協力して努力を持續し居ることを報告されたのであります。

次いで西班牙の大使の演說があり、皇帝は特に御熱心であつて、技術家を指導され、政府も之れが統一を圖り、勞働者の注文を勞働大臣に於て聽取研究中である點を力說したのであります。

次に米國の委員テーラー氏が起立した、此人は都市計畫委員會の秘書役であります、米國に於ける現狀を說明し、米國にては一切民間に一任しつゝあることを說き、米國としてはこれで充分である所以を述べ、米國民は自分の事は自分でやる主

義から、各自、自分の住宅を設け、夫れ程重大なる問題でないといふ意味の説明を致しましたに就いて、紐育市役所の衛生部長である處のドクター。ホプトン氏は此説明に滿足せず、米國の有力者が住宅問題に不熱心なるを憂へ、紐育の現狀を說き紐育市にては、一軒五人を容るべき住宅に十人以上の過住せるもの五百軒以上あり、甚しきは十二人以上のものあり、政府は之れに關係せず、吾々市役所が住宅不足を憂へて居る所以を述べ、市役所としての希望は住宅の建設に從事するものに將來二十年間免稅したき希望あり、又非衛生的家屋はドシ〳〵取毀ちたき希望あり、之れが研究努力を持續して居る事情を述べ、デーラ氏の言は不可であると反駁した。

是に於て英人の或人は大いに之れに同情し、若し英國にして米國の如き態度を政府が執るならば革命は必然の結果であつて、決して捨てゝ措かれん、と述べたのであります。

（三）

夫より設備の研究始まり討議に移りました、勞働協會からは標準住宅として最低減度に於て大寢室三箇、居間一箇を缺ぐべからずといふ意見が出て、之を本會議の決議とすべしと主張したのですけれども、各國夫々事情のあることであるから、決議とすることは出來ぬといふ意見で落着したのであります。

又スコットランドの委員から、宅地一エーカに十二軒は多過ぎる、八軒或は多くも十軒であれとの主張がありましたが、これも決議としては否決されました。

最後に各國專門家の意見交換の後に於て、苟も文明國として住宅各箇の基礎條件としては兩親の寢間を一室、青年に達する男女に對して各一室宛の區別、又各戸に便所、風呂場を設くべしといふ意見に一致した、但し室の間數の增加するは差支へないのであります。

英國では現に居間一、寢室二と決定し、之を實行しつゝあるのであります。

其他の決議としては、

一エーカー毎に於ける軒別は各國其狀況に應じて研究すること、工場は住宅地域より分離せしむること、田園都市に於けるごとくすること且つ法令を以て取締るべきこと等でありました、尙ほ最後の日には私等も參加することが出來まして、次の樣な決議がありました。

一、各國の政府は各都市と協力して住宅問題の研究解決に努力すること。

二、主要なる道路系統を整理すること。

三、安寧なる土地を享有するために法制を布くを要ずること。

尙希望條件としては、

一、各住宅地は四分ノ一哩以內に小運動場を配置すること

等でありました。

會議が完了しましてから、各國參列者は英國の田園都市を見物致しまして、夫から倫敦市中に於ける新住宅地の視察をやりました、現在倫敦市に在ては八ケ所に五百三十七萬坪の敷地を買收しまして、之れに理想的住宅の建設を努力して居りす、其一である所のダーグラムエツセントの如きは、三百六十萬坪の地域でありまして、テームス河左岸の下流に宏大な土工を起して居ります、この敷地に道路を敷設する丈でも三千萬磅の巨費を投ずる積りなのであります、幹線道路は二十間巾に致すそうで、公園、運動場或は花園畠等を設くることは勿論であります、三千萬磅といへば我國の二億四千萬圓に當るのであります、既に決定したのが五百萬磅（約四千萬圓）であります。つゞく

清嵐立たむとならし
楢の葉のきらりきらりと朝日に光る



〔資料〕

英國に於ける建築組合（ビルデングギルド）の進歩（上）

ジー・デー・エッチ・コール氏稿（抄譯）
（アメリカン・インスチチュット・オブ・アーキテクト誌所載）

目下英國に於ては組合組織の下に施工さるゝ工事が發達して來た。英蘭及（イングランド）ウエールス」地方の各部に既に有力な住宅請負者が十七も出來て、組合組織の下に各施主の爲に住宅内外の工事を開始して居る、これは工業上の自治のためには大切な試みであつて、約一年前から「マンチエスター」の大工組合で始めたものであるが、工業界にとつては既に重要な實際上の勢力となつて來た。其發達の徑路は必ずしも圓滑ではなかつたのみならず、組合組織の進歩としては絶えず困難が起りつゝあるが、一度起つた此運動は恰も燎原の火のように其勢を高め、他の工業の職工の耳目を聳動して、却つて猛烈な反對運動をも引起さんとする形勢である。

◈組合の時價

組合組織の下に定められた建築物の時價として第一回の確實な數字は既に發表された。炭鑛地として有名な「ヨークシヤイヤ」の「ベントレー」に於

ては「郊外地域調査會」の要求に應じ、「地方組合委員會」が大規模の請負を引受けて、第一回の住宅を實現せしめた爲である。

一番最初に出來上つた二軒の住宅單價は、各戶一五二〇磅(約一萬二千圓)から七六〇磅(約六千圓)である。此の價格は工手間、材料、給料、車馬賃其他總ての雜費を包括して居る。それから組合と政廳との間に契約された五パーセントの公定利益と又衛生大臣の認定した一戶四十磅の特別補給を計上して居る。此の補給は組合組織設立の目的を貫徹する爲めに、職工に對する賃金の連續支拂、雨天其他の場合の補助、負傷事故に對する手當等を見込んだものである。

一五二〇磅の中で、四五七磅は普通の工手間で八十磅は連續支拂(常傭)、車輛費は極少額であり他は殆んど材料費である。是は普通の連續請負に於ける同一程度の建築費とは比較にならぬが、政廳が組合との契約によつて、單價は前者に比して四〇〇磅則ち二十パーセント以上の節約になる。此の比較は同地方に實施された殆んど同一程度の住宅建築に對して、普通の請負者の實價と對比したのである。

斯く最初の實價取調の結果は、建築組合經營者の滿足を贏ち得たのみならず、實際公益の新道程であり、職工にも良好な條件であるのみならず、延いては、一般住宅の價格を低下せしむる利益は多大である。

他の地區に於ける數字は、現在に於て一時的概算であるが、一般請負者の見積から見ると、一戶百五十磅よも少なからざる節約となる。組合組織の最も盛んに行はれてゐる南「ヴエールス」の組合單價は今取調中であるが、是とても「ヨークシャイヤ」に於ける實際的節約價格と殆んど同一程度であることは明かである樣である。

◈政府の妨害

此等の數字並びに目下調査中の數字の發表は從來建築組合と衛生大臣や其背後に在る大請負者側との間に久しく問題となつて居た價格の爭を解決に導く所の參考となるに相違ない。久しい以前に衛生大臣は此等組合組織の請負をして實價評價を

基礎として之れを是認するばかりになつたと發表したが、今の處此等の組合の數は全國で二十に制限した。此等二十の組合は皆手一杯の仕事を與へられることになつた。仍で組合の職工は百區が百區共皆夫々用意して居るが、衛生大臣の發布した取締のために請負を引受けることが出來ない。此等の地區の政廳は皆此組合の入札を歡迎して居る。それは其見積が實際に一般請負者の入札價格より大いに廉い爲である。處が此等の當局者や委員は請負者から衛生大臣の許可が來ぬから地方政廳にては其請負契約を有效と爲すことが出來ないと苦情をいふてゐる。

斯かる事情は甚だ善からぬことである。現今の工業組織に於て近代產業の大なる經驗は、個人の利益を挾む事なく社會的奉仕の爲に經濟的自營の方針で進みつゝあるのに、政府の干涉壓迫により却つて角を矯めて牛を殺す樣な結果になつてゐる。そして、それは實に建築工業團體請負者側の希望によつて此事情を惹起してゐるのである。而も今後は尙惡化せんとしつゝある。何となれば衛生大臣は現在請負者を增加することを許可せざるのみならず、若し此組合法式の運働が大規模に行はれることを許すならば、一般請負者に對して此等組合の「優先權」を認めることになるからしい、其結果現行請負法の改正を要求されることになるから、といふ理由をほのめかしてゐる。斯の論點は建物一戶について組合職工の「連續支拂」に當てるといふ目的のために四十磅の特別補給を計上しやうといふに在る。請負者側はこれを「優先權」であるし且請負金額に加算して職工連の連續支拂に當てんとするために加算すれば、勢ひ請負價格を增加するのであるから許可する譯にはゆかぬといふのである。斯の議論は二つの理由から非難すべきものだ。第一に請負者連は「連續支拂」の原則を承認するの必要を認めぬ、と熱心に主張して居るが、彼等は唯望ましくないから特許を許さぬと徒らに抗辯して居ることは大いに非難すべきである。第二に若し假りに彼等が此連續支拂の條件を是認しても、交換條件として彼等の利益を保護する立場より、消費者から特別の費目を要求するに相違ない

のである。

◆利　益

組合側では利益のために仕事をするのを拒絶してゐる。若し彼等が彼等の見積より少額で建築することが出來れば、これは彼等自身の利益に計上せずして悉く實際の建設者又は建物を建てしめたる當局者の費目を削除しやうといふのである。乍然、組合は一方に利益に關する凡ての要求を放棄拒絶する代りに、彼等は職工の連續支拂に對する保證を主張して居るのである。彼等の言分によれば、是は價格に對する合理的方法で此支拂に對する權利を要求してゐるのである。若し此等の條件の下に組合の計上した價格實費を觀れば、明かに一般請負者の見積價格よりは少額である。何となれば後者は彼等の利益を計上して居るからだ。して見ると、一般請負者の考慮して居る組合の「優先權」、を得んとして居るといふ非難は、不都合ではあるまいか。

衛生大臣の現在の態度は疑もなく建築業者の側に立つて居る。此組合組織の成立つた最初に於て請負者側では此試を無鐵砲の計畫であると斷定した。そして若しも彼等の爲す儘に任せたならば、彼等は忽ちに自滅の矛盾に陷つてしまふだらうといふた。夫故に請負業者は此組合組織の發達に對して何等の妨害を加へなかつた。然るに、間もなく、彼等は此組合が其實績を擧げ來つて、しかも彼等の見積價格より安價であることを識つて、忽ち猛烈な妨害を始めたのである。

建築請負業帝國同盟會の元會頭であつたステヘン・イーストン氏は當時衛生省の住宅問題の有力なる顧問であつた。と氏は此組合の提出した「優先權」を保護することを拒絶する爲に其地位を抛つた。夫と同時に、現衛生大臣は大請負業者連の意志を迎合して後を襲ひ、連續支拂の原則を拒絶し既に數ケ月以前に之を發表した。夫よりして事態紛糾し、組合の發達は阻害されて來た。乍併結局衛生大臣は彼自身の約定を裏切つて此組合を二十迄は許可することの止むなきに至つて居る。斯くて此等二十の組合はどん〳〵仕事を始め、其結果は此組合法の新經濟組織の善良なる事實を天下に宣傳するに充分ある効果を齎して居る。（つゞく）

都市社會事業と社會事業家（上）

——（ハル・ハウスのミス・ゼェーン・アダムス）——

岩村貫三郎

明瞭となるが、ハル・ハウスの事業はトインビー・ホールの事業の感化を受けて着手せられたのである。併し今度はハル・ハウス自身が偉大成る感化を及ぼして、社會事業の先覺者、先驅者と成り、米國各市のみでない、實に世界的に社會事業の簇起を刺戟したるとは多大なるものがある。シカゴ市の貧民階級移民部落の中心にあるハル・ハウスは彼等の母や妻に善良の感化と訓育とを與へ、腐敗甚しき中心にあつて、主義主張ある事業を營んでゐるが、初めアダムス女史の注意を惹いた問題は街頭の兒童問題である。人々密集せる大都會の兒童が、住家狹く庭園なき關係上、自然に遊ぶ場所を街上に求め、この結果惡化して不良少年少女となり了る、これ市民寧ろ國民の將來にとりて一の脅威である。女史は衷心よりこれを憂へ、如何に

（A）

市加古市のハル・ハウスは、倫敦市にあるトインビー・ホールと共に、有名なる社會事業の一である。前者は、社會殖民事業（ソーシヤル・セツツルメント）と稱し、後者は大學殖民事業（ユニバーシチー・セツツルメント）と稱してゐる。後者はオックスフォード大學に關係のあつたトインビーによつて、又之の大學の教授學生等の援助の下に創始し經營されつゝあつた社會事業であり、前者は社會の一員たるゼェーン・アダムス女史が開創し持續してゐる社會事業であるためにこの名があるが。要するに兩者ともに貧民賤民の部落に、或階級の教養と高き品位とを植ゑ附けんとする志より企てられたる事業に外ならぬ。本篇を讀まるゝならば後に至つて

してこれを救濟せんかに心を痛めた。いかにかして彼等の遊ぶ時間を利用し、彼等を善導する道なきものにやと思ひ廻らした結果ハル・ハウスなる事業が生れたのである。室内を遊戲室、音樂室、繪畫室、石膏室、靴製造室、機械室、社交室、講演室等に分類し、兒童や少年少女の好みに應じて薫陶し、又職業を教へて行つてゐる。外に幼稚園や小學校もあり、夏季には貧兒を交代に田園に送りて田園生活を爲さしめてゐる。

拙文は平和論者にして教育家、社會救濟家、兒童の友たる高人の、經歷と内面生活を彼女の自傳『ハル・ハウスの廿年』に據つて一瞥せんとするにある、單に建築のみならず、又都市計畫事業にも理想を有せらるゝ本誌に於ては、必ずしも不適當にして無益の業ではあるまい。

（B）

アダムス女史は千八百六十年の生れであるから今年正に六十一歳になる。幼にして母を失ひ、父親の手に育てられた。彼女の自傳的記錄を見ると父親の感化が強く現はれてゐる事が記してある。古來からの偉大なる人格者は、多く母親の感化を受けて育つたやうに見ゐるが、父親の感化の下に偉大な成長を遂げた人物の例も時偶に見る。今かく記し來りつゝも佛の思想家であるパスカルの幼時を聯想する。アダムス女史は數ある兄弟姉妹の中の末子である。家は中流の中以上に位してゐた如く見ゐる。彼女が四年間も歐州各國に遊ぶを得たことから考ふれば、かく定めて間違なからう。

我等は彼女の事業に忙がねばならぬから、幼少時代の印象や、學校教育の過程の如きは端折つてハル・ハウスの事業を創始せしむる遠因となつてゐる處の、歐州見學の印象から始めねばならぬ。

女史は廿三歳の秋に歐州見學に出發するとに定つた。見學と言つても養生を兼ねた漫遊である。廿一歳の夏にロックフォードの女塾を卒業してから、フィラデルファイヤの女醫學校へ入學したのが、前から患つてゐた脊髓病がかうじて、翌年の晩春に入院し、長らく姉の宅に病臥せねばならぬことゝなつたが、竟に學業も中止せぬばならぬ境

遇となつた。こゝで醫師の勸めに從つて、二ケ年間の豫定で歐州に出發することゝなつたのである。

女史が社會事業に獻身したのは、マルキシストやサンデイカリストの多くの者の如く、理論的考察から出發したのではない、全く溫かい人道主義者の心持に囚はれてしまつて、虐げられた悲慘なる部落の徒のためにする同勞同情の思からしたのである。而してかゝる心の持主には、多く彼をしてこの路に驅り行かしむる處の內面的な深い經驗があるものである。これを女史の自傳に求むれば、左に記す一例の如き、斯の間の消息を漏らすものであらう。

英國に上陸して二ケ月を經た或土曜日の夜更けて、倫敦市に居住する或る傳道者の案內で、女史とその友人等の一行は、この大都市中、人口の最も密集せる細民部落である東倫敦を視察した。この暗黑部落より女史がこの時に受けた印象は、終生拭ひ消し難い深刻なものであつた。倫敦市の日曜日の律法として、日曜日は絕對に物を賣ることを許されない。故に月曜日迄持越すことの出來ぬ食糧品は、土曜日迄にかたづけてしまはねばならぬ。一行が狹い路を通ふて行くと、處々青い瓦斯燈の光る、とある街路に、二臺の大荷車が止まつてゐる。この周圍には汚穢い衣服の群が、口々に喧しく騷ぎ乍ら、荷車の中から商人の手に高く差上げて競り賣る腐敗した果物や野菜抔に、五厘一錢と値踏をしてゐる、軈て之れが何人かの手に、犬にでも物をやる如く投げ出される。一人が群を離れたかと思ふと、キャベージを手に、辻角にしやがみ、洗もせず皮を剝きもせず貪り食つ　居る、襤褸を纏つて最も安價な物を食ふ、彼等の青い顏は人の表情の中最も見惡い表情である。併し女史は言つてゐる、彼女の受けた最後の忘れ難い印象は痩せ汚れた淡黃の顏よりも、寧ろ既に食ふに耐へない安價の食物に差控す處の街頭のうすぼんやりした光に青白い虐しい悲慘な働き疲れた手であつたと。その後歐州各都市の貧民窟も、南伊太利の乞食の狀態もアウストリヤの山鹽坑夫の有樣も視察したが、この東倫敦の印象程、人間の悲慘を感

銘せしめたるものはなかつた。その後は倫敦を歩く時も、狹い街路に入ることを恐れて用心した。再びこの人間の願求と苦痛との光景が曝露せられざらんやうにと警戒した。人類がよくもこの切實なる問題を解決もせず、平氣で日々を送る有樣に思ひ煩ひ、幾日となく悲哀に沈み、元氣沮喪してしまつた。その時はペルメル、ガゼット紙に、『棄てられし倫敦の呻吟』と題する文章が連載されてゐた時で、曾て前例なき程に英國の良心は、この首都の東端にある處の暗黑の部分に對して衝動を受けてゐた。大きな根本的なる計畫も論ぜられ、すばらしい都市改善案も既に輪廓だけは出來上つたが、噂だけで實行には却々遠かつたのである。

(C)

女史は名譽のためにする事業のための事業家ではない。況して職業的の慈善事業家では勿論ない。貧民の境遇に痛む誠實なる良心が、本能の如く、彼女を靖献せしめたのである。社會事業は科學的に大仕掛に企てられなければならぬは勿論であるが、女史の如き心持が背景と成り、精神と成らねばならぬ。然らざれば、無味乾燥な、人間味の薄い悲慘なものとなつてしまふ。

かゝる業に歩み行く女史の良心の鋭敏さは、普通人より稍々異つてゐたと見へる。七歳の頃からして、虚言をついたことがあつて、夜床上に轉々として反側し、父の部屋に行つて懺悔しその赦を受る迄は安眠することが出來なかつたと記してある。又彼女が貧困の問題に就て考へたのも、既に幼少の頃であつた。生れた村から半日にして達せらるゝ或町に行つて、初めて、貧民の住んで居るみすぼらしい小路を見た。何故この人々は怕ろしい汚ない場所に、かうも密集して生活してゐるのか、と父親に訊したとある、これが彼女の貧民問題に頭を向けた最初である。

話はもとの東倫敦の印象に還る。前に記した如く彼女は陰鬱な日を送り、慰はどこからも來なかつた。病める心の中に、曾て讀んだ英の文人ド・クインシーの記してゐる『變死の幻影』を想ひ起した。郵便馬車を驅つて田舍を廻つてゐる或夏の夜

のことである、と見ると巨大なる機械のある方へ眞直ぐに續く狹い兩側に花の咲き亂れる道を、二人の戀人が戀に醉ひ乍ら、二人を碎かんと運轉するその機械の方へと一步一步近寄つてゆく、ド・クィンシーは驚き乍ら大聲にて、その危險を知らせんとしたが、聲が出なかつた、この幻影から醒めた彼は、その夜恐怖に襲はれて眠るを得なかつた、併しド、クィンシーは人生問題に惱み乍らも自分は多年研究した古典文學の暗示によつて、生死の問題は解決すべしと、當面の問題を解決し去つたのである。併し彼女にはそれが出來なかつた。彼女は敎養を好み、品位を愛した、藝術の馨に背くは堪え難い痛であつた。併し、是等をもつて良心の嚴しき命令を蔽ひ去つてしまふことは出來ない。急劇に上り來つた貧困の問題の爲に二年間惱み通した。敎養の普及も、彼女を慰めることも救ふ力もなかつた。これが彼女の『世界苦（ヴエルトシユメルツ）』であつたのである。

サックス・コブルグの雪の朝のことである。小さなホテルの窓から市の四ツ角を見おろして居た。半圓形の木製の重い水槽を、しつかりと脊中にくゝりつけた婦人の列が、行つたり來たりしてゐる。これはビールを釀造する一階段として、原始的な製法であるが、熱くなつたものはタンクに入れて、距つた場所に設けある冷い室に運ぶのである。婦人等は前に身體をかゞませ乍ら歩く。重いからではない、タンクが頭以上であるため、眞直にのばすことが出來ぬのである。寒い朝の空氣に顏も手も赤くなつてゐる。

前夜晩く迄グレイの書いた『アルバート公傳（プリンス）』中の偉なる家庭敎師ストックマー男爵のことを讀んだ彼は、彼の『プリンスの心をプリンスらしく』敎育することに全注意を注いで居た處の義務感の敏い人であるが、併し彼は上流の安樂な生活をせる階級しか知らぬ。貧しき勞働者の生活は全く無視してゐる。今朝となつてはその書物に何等の興味をも感ずることは出來ない。朝食も味がなかつた。ドレスデンの美術館で美術史を讀むが如く、各時代の繪畫に親しんだり、オペラに行つたりしたが、敎養に對する熱烈なる追及も、道德的反撥の樣に

なる經驗を重ねしむるのみであつた。かゝる際、女史に唯一の滿足を與へたのは、アルブレヒト・デューラーの繪畫であつた。繪畫の歷史に於ては、非正統的な、單なる一個の人間の純眞なる記錄の如き、平滑な敎養的な人生觀に對し、厭惡の情の著しい點に共鳴したのである。

(D)

幾世紀も巡禮が爲たやうに、燒けつく如き日光の直射を冒して、羅馬郊外を三哩歩き、ポルタ・デル・ポッポロを通つて永遠の都に入らうと、一行に提議した程、伊太利には一種の感興をもつて居たが、流石に伊太利の風光の美と藝術の驚異とは學問の追及、藝術の憧憬に對して無感覺となつて居た女史の心を幾分恢復せしむるの力があつた。それより一旦歸米してバルチモーアに冬を過した。此頃神經衰弱がやゝかうじてゐた。羅馬のランキャーンの講演に連つたり、又ジョンスホプキンス大學の講師の指導を受けて、伊太利獨立運動を研究したマッヂニーの感化も幾分受けた。

夏は北イリノイスの舊き家庭に過してゐたが、或日曜日の朝、村の長老派の敎會で洗禮を受けた。この決心をする迄には、別に外的の壓迫もなく、情緒的の回心の經驗もなかつたのであるが、すべて謙讓と眞率とをもつて、信仰的生活を外的に表現したのである。

我みづからに倦み、
われは何者ぞ、われは何をなすべきものぞ
てふ
探究に病みて

その決心を固くしたのである。『己の力にて善くならんと望み、又自らを僞ることは、誠實に棄つることが、宇宙の深きに達する唯一の戸』であるとの單純な幼兒の心もて福音を受け入れたとある。

第二回の渡歐に就いた。この頃同盟罷工を行つて居たマッチ工女の集會が、倫敦の有名なる勞働運動指導者の指導の下に催されて居たので、女史は度々出席した。集會に報告さるゝ最低賃金や又時々洩れる燐寸工場の仕事の恐ろしさ、工女等の容貌、女史は人類の憫然さ薄命さを一層切實に確

信せしめられた。併し女史は人類の弱少と悲慘を感じ乍らも窮極の點に至れば、足をしつかり希望の光といふ盤石の上に踏みしめてはづさなかつた處の今の有名なる英國の小説家ウェルズの考を引用してゐる。ウェルズはその小説中の一人物をして言はしめてゐる。國家でも敎會でも、惡い處の存在するを知るや否や、之れを矯正する權威を有てる者の群がある。その如くこの宇宙にもあらゆる苦痛、罪惡、欠亡の背後に、これを償ふところの正義者があらねばならぬてふ確信を、いかなる反對の事實が現はれても青年は頑固に信じて居る。

女史が己の心中に徐々に醱酵して行つた人道的の心を、外に表はさうと決心したのは、一八八八年、西班牙のマドリッドで鬪牛を覽た後の事である。きらびやかに西班牙風に飾つた昔の面影を偲ばしむる圓形戲場の內で、勝負を見る彼女は、中世期の華かな騎士のロマン的の夢をもつて現實を粉飾し、空想の甘き酒に醉ふて五匹の牛と之れ以上の馬の斃るゝ殘忍な競技を比較的無頓着に覽た。併し夕に至つて自然な反動が來た。晝の光景が起す道德的憲惡の情、夢想者の方法をもつて良心を眠らして居た怠慢、紙上の改革に對して覺ゆる不滿、かくして憂鬱なる一夜が明くると共に、彼女は一大決心をもつて、さゝやかなる計畫ではあるが、これを實際に實行すべく同窓の友で歐洲漫遊の同行者の一人であるスター嬢に語り、同女は伊太利に、己は倫敦に行つて、トインビー・ホールやビープルス・パレースを視察したのである。

(E)

一八八九年の正月に計畫を遂行するの場所を市加古市に探した。諸種の階級の關係は相互的であり、社會的關係は本質的に相互的であるといふ說に立つて、外國移民の部落に寬大な廣い温かい心を以つて經營せる、何人でも容易に近き得る一家を借りて足場とせんとした。かくして、米國市民より兎角孤立せんとする移民をして米國精神を諒解せしめ、米國に彼等を融和せしめて、市加古市に幾分でも貢獻せんとしたのである。かくして

市の新聞記者や傳道者等と伴つて家の位置を探索した結果、前市長の友情によつて三週間後に、ブルウ・アイルランド・アヴェニュー・ハルステッド・ハリソン等の街の交叉する地點の近くに、手ごろの家を借りることが出來た。

一體ハル・ハウスなる名稱はこの家屋を建てた人の姓名なのである。即ち一八五六年市加古市の開拓的市民の一人、チャールス・ゼ・ハルの屋敷であつた。これが後には工場にも成り、二流の家具店にも成り或慈善團體にも使用せられた。現在の持主が寛大に全家を修繕して貸してくれた。その後漸次に十三箇の建物を全部借りることゝなつたのである。家の内部は歐洲から集めて來た寫眞や樣々の道具で裝ふた。而して女史とスター嬢と外にアリー・ケイザーといふ婦人と三人で移り住んだのが、一八八九年九月であつた。

こゝで一寸當時の市加古市の狀態を記さう。本誌の「將來の市加古市」と比較して讀むならば、興味深からうかと思はれる。

ハルステッド街は長さ卅二哩、市加古の大商業街の一である。その凡そ眞中ごろをポーク街が交叉してゐる。この街と並行して南方に家畜置場、北方にはシカゴ川の支流の岸にある造船場がある。この兩間の六哩のハルステッド街は屠肉屋、食料品屋、うす汚ないいやに飾つたサルーン、仕立上げた衣服を賣る見かけ倒しの館が並んで居る。ハルステッド街を起點に西に走つて居るポーク街は急に非常に繁華な光景を呈し東に一哩スタイト街に到る迄ポーク街は漸次に淋しい汚い町になつてゐて、クラーク街と第五アベニューの隅と交叉して居り、惡習の行はるゝ場所となつてゐる。ハルハウスは、曾ては郊外に建つてゐたのだが、市が徐々にその周圍に發展して、今は三四の外國人植民部落の隅になつてゐる。ハルステッド街と河との間には、一萬の伊太利人—ネープルスシ、リヤ、カラブリヤの生、稀にロムバルド生、ベヂチヤ生—が住んでゐた。十二市街の南には多くの獨逸人が住み、その裏の街にはポーランドやロシヤ生の猶太人が住んで居た。

（以下次號）



〔漫錄〕

太西洋を見る日まで（八）

會員　波江悌夫

○名詮自稱の市俄古市

一行四人を乘せた自動車はホテル、アヴデトリアムに向つた。此ホテルはミシガン・アベニウに面して好位置を占め屈指の大旅館だといふので一同異議なくこれに一泊するに決定したのであるが、運轉手は何處へ行りませうかと念を押した、S君はアヴデトリアム・ホテルへ直ぐに行けと吐鳴つたが、あいにく、運轉手に通じない。二三度繰り返しても合點しない。

『解らん奴だな！「ミシガンアベニウ」の「アヴデトリアム」だ！』

睨めつけたが、漸く

『へゝゝ！　トーリアム・ホテルですか』

と「トーリアム」に強いアクセントが付くと見えて「アヴディ」が聞ゑん位である。さすがのS君もこれには面喰つた樣だ。

自動車は左折して直ぐに橋を通つた。と思ふうちに人車駱驛たる此市の下町を横りつゝある。見上ぐるばかりの摩天閣は肩を並べ、軒を連れて、さらでだに狹い街路を威壓して突立つて居る。今し午後の汐時と見えて人の波は眞黒に此の狹い谿の兩岸を流れつゝある、車は車で相連なつて自由に動くことが出來ずに四つ角毎に立往生の憂き目に遇つて居る、交通整理の巡査は右手を擧げ左手を振つて間斷なき指圖を敢行して居る。高架電車のある往來に到つては轟々轆轤として洞道を通るの趣がある。

さすがに、米國第二の大都市の壯觀は一行の膽を寒からしめた

が、空どんよりと薄曇りの此日氣のせいか大都市の誇である所の高層樓閣は、どれもこれも唯眞黒に煤けて皆數十年の歲月を經たかと怪まれるには更らに一驚を喫しなければならなかつた。中には新らしい最近の建築もある筈であるそれにも係らず、何れも同じ樣な色合に懷ぶつて居るのは一體什うしたものであらうか。

そも〳〵高層建築の進歩發達の蹟から見れば、明かに紐育は其發祥の地である。乍併當市は亦二十有餘年の以前より摩天閣建築の搖籃であつた。現に此市の下町に肩を摩して聳え立つ樓閣は何れも科學の粋を鏤め、美術の巧を盡して出來上つた二十階前後の大建築である。それだのに、一として新しき偉容を備へ鮮麗美裝の快觀を與ふるものがないのは什ういふものであるか。

どれもこれも人を威壓する容姿は、秋の峰の夫の如くに聳立して居て、さらでだに前後五日に亘る大旅行に疲勞した自分等の頭を、紜雜作に刺戟した。

ホテルの「ホール」に入つたときM君はこういふた。

「誰が付けたのか知らんが、「市俄古」とは頗る適切な意味を有つて居るね』

「なぜ」とM君が反問した。

「俄かに古くなつた市と書くぢやないか」

これには自分も頗る同感であつた。これは、畢竟、此の偉大なる工業中心地を包圍して林立する無數の煙突から、吐出される煤煙のなす業であることは爭はれない樣である。

東洋の「マンチエスター」と誇る我大阪市は丁度米國の第二の都市と同樣な運命を有するとすれば、將來都市の美觀のため又は都市の衛生の上から見て、夫々雲と湧く其煤煙を取締る必要を感ずる時期はあまり遠からぬ事であらうと思ひ、市俄古市の第一印象はともかくあんまり感心したものでなかつた。

○「バツハロー」へ

Y君とS君は其夕直ちに「ケベック」に向つて出發した。其日の夜に入つて自分とM君とはK君を迎へて、一夜をホテルに明かした。翌日は午前中ユニオン・ストックヤードの見物に血を躍らした。北米中央の沃野から集まつて來る牛、豚羊の數十萬頭が毎日毎日數千頭宛料理される處の五大屠場が、市の南境に現世の地獄を實演しつゝあるのである。豚を釣し切にする大車輪や、咽喉に利刀を加へられて瞬間に眠るが如くに往生する羊の群、一擊を眉間に加へられて丸體山の如くに橫はる牝牛の姿は、自分の記憶から永久に去らないものゝ一つである。

工業都市は決して美しいものでない。此日の午後高架電車で車窓から圓らす此市の大觀を得ようとしたが、總體見苦しい古建築の立連ぶ場末から、市の中心地へ近くまで、あんまり立派な都會ではない樣である。想ふにこれあるが爲に、市俄古の先覺者が大シカゴ市の大都市經營を高唱した所以であらう。

春ならば「ミシガン」通青草萌ねて旅情を養ふ暇もあろう、夏ならば「リンコルンパーク」の散策も一興に相違ない、だが、橫面を叩く樣な寒風と折々、チラ〳〵灰の樣な雪の粉の舞ひ下る此市には、落付く氣も起らないので、此日の夕刻の列車で紐育へ向ふことにした。

「バッハロー」で下車して「ナイヤガラ」を見やうぢやないかさに君の發議で、紐育行直通列車に乘らぬことにして、「ラサール」驛から「バッハロー」行の普通列車に乘り込んだ。從つて一々田舍の小驛に停車するのもどかしさに堪へられなかつた、と同時に圖らずもとんだ失策をやらかした。出發に際して荷物の整理に汽車の選擇、旅行のプログラムに苦心して夕食は車中でやらかさうとなつたが、あいにく此の列車には食堂のない事を發見した。

K君もさすがに困つて車掌に交渉すると何とか驛で十分停車するから其間に驛の食堂でやつてくれとの事であつた。そこで其何とか驛に着くや三人共急いで驛の食堂に飛び込んだが、田舍の小驛の事とて菜とパンより外に料理なんぞは賣つて居らない。仕方がないので「サンドウイッチ」を買ひ込んで紅茶を呑んで一時をしのぐの外はなかつた。

喫煙室に歸つて來た自分は或青年から言葉をかけられた。

「腹がすいたのですが、食堂車は何處にあるんですか」

此青年は田舍者であるに相違なかつた。しかも其以上の赤毛布の我々に樣子を尋ねる此青年に吾々が好感を抱くは無理もないと思つたので、早速食堂の位置を敎へて早く〳〵と急がせた。

總じてシカゴ以來吾々の特に感じたのは、米國中央部では、太平洋岸の樣な人種的反感のない事である、田舍出の一青年に限らずシカゴの驛頭でも外人の一紳士は自分等に道を尋れた、其體度には全く人種的偏見の傳はなかつた。

夜に入つて喫煙室では歐洲戰線の實驗談を誇り顏に話す一人の在鄉軍人を取り卷いて四五人の田舍紳士は耳を傾けてゐた。話八分どいふが吾々の耳には其二分も解らない。潮の如く押し寄せ來る獨軍の爲めに米軍の苦戰惡鬪の狀況から、遂に逆襲に轉じて、誇るべき武勳を樹てた思ひ出にシンミリした話が續けられた。時折車掌殿迄引付けられて座中の人となつて居た。

「吾々は「ローズベルト」氏の卓見を偲び、今に於て彼の偉人であることを知つた」

と一轉語を下して彼れの談は日氏の主戰論から「ウヰルソン」大統領の政策に論及し、夜の更くるのも忘れて居た。

翌朝の六時「バッハロー」驛に着いた。あいにく飛雪紛々として降つて居る。事情が判らない三人はどうしたら「ナイヤガラ」に行けるか早速に困つた。驛夫に訊くと汽車がよいといふ。極草屋の邊さんは電車がよかろうといふ。自動車屋は御安く行きますが奈何ですと來た。ともかく昨夜からの空腹を滿たすの必要から驛前の料理屋に腰を下して段々取調べて見た。何れにしても此雪では自動車がよいでせうと勸められて自動車を一臺備ふ事にした。

○雪の『ナイヤガラ』

「バッハロー」から「ナイヤガラ」迄は約十八哩あるそうだ。自動車でカッ飛ばしたら大した事もなかろう。賃金も思つたよりは安價である以上は何よりである。

車窓から雪の「バッハロー」市を見物しながら我一行は北へ斜にいい貫て大通を突走つた。雪は幸に小降りとなつて郊外の道々たる往還に出た頃はドンヨリした大空に日の光も現はれた煉瓦で數き詰てあるので乘心地のよい事此上ない、冬の事て後にも先に

も車の影さへなく打開いた冬枯の雪景色は一層寂しさを増してゐた。初めは珍らかな旅行の樂に耽つて、活動寫眞を見る樣な興味を惹き起したが、暖房の設備のない車中に三人共無口に寒氣を覺え初めた、靴の爪先から凍り付く冷氣は次第に膝に達して御互の唇は紫色になつて來た。ゆんや全速方で疾走するのだから寒風は遠慮なく布呂の間から襲來して雨勝が特別の振動を繼續する、果然三人の計畫は失敗した。

K君は軍歌でも唱ふと發議した。よかろうといふので鐵道唱歌だの「青葉茂れる」だの吐鳴つたが文句を大半忘れて居るので去張り物にならず、仕舞にはラッパ節だの「サスライ」の歌だのを唱ふ中に哀情湧くとでもいふか三人共いつの間にか無言の行に陷つた是で疲れて眠くなつたら凍死してしまふに相違なかつた。幸に自動車屋は「ガソリン」の補充をするといふので途中の茶店で車を留めた。生き返つた三人は茶屋の暖炉前に膝を据ゑてホッとした K君はいふ「こんなことなら汽車にしたらよかつた」といふ「今更仕方がないぢやないか」とK君がいふ。自分は自動車にも「暖房の設備」を必要とする事を痛切に感じた。

更らに元氣を出して四五哩走るうちに目的地に到着した。箱根や江の島で見る樣な御土産を並べた店の或軒がある邊から濁浪滔々たる渓流を過つて山羊島とか稱へるコンモリした森の向ふ側へ廻つた。

「さあ此處から御覽なさいよ」

といふ運轉手の案内で雪の懸崖をだら〳〵と下りると見張らし臺とも思はれる鐵柵のある平坦な所へ出た、夜來の雪が少々積つて居る上に懸崖から逆落しに漲り落ちる水烟は、西風に煽られて雪と化し遠慮もなく吹き付けるので面を向けん樣もなく、我吐く呼吸は白く煙つて眼鏡を曇らせる、寫眞機を開けたM君も「これぢあどうもならん」とそこに〳〵引上げる。飛雪は鐵柵に吹き付けて其所には氷の壁が出來てゐる、風に背を向けて氣を落付けて見渡せば此邊一帶の枯木は玻璃世界の花を咲かせて美しいといふか物凄いといふか、申し樣もない、氣が付いて見れば我踏む足元には其所此地に濁水の餘流が脈を曳いて急がしさうに流れてゐる。我踏む生地は此等の流に間斷なく浸蝕されつゝあるのだ、思はずゾッとして崖の上に引還した。

「什うでした」

と運轉手がいふ

「いやもう物凄い事此上なしだ」

と答へたが、それより寒いのに閉口した。たしかに零下十幾度に降下して居るに相違ない。

「ナイヤガラ見物は夏に限るね」

とM君が言つた。

「今度は「カナヂアン・サイド」の奴を見ませう」

と左側の方へ案内した。此處は道もよく足元も危くない阪を下りると橋が架けてある處から馬蹄形の懸崖は目前に展開してゐる。彼には粗林の丘を背景として英國風の建物が並んで居る。懸崖の上は雪と氷の凸凹な斜面となつて其の間を濁つた水が怒つた樣に躍つて居る。馬蹄形の邊は水烟が渦巻いて高く奔騰して居る。橋の下を流れる水は絶え間なく懸崖を越えて落ちて行く下は見えな

い。

これが名にし負ふ「ナイヤガラ」か。

自分は其あまりに茫大なのに、其あまりに殺風景なのに氣を奪はれてしまつた、自分は圖らず曾つて阿蘇山の噴火口を探險した事を懷ひ出したが、其偉大な「クレーター」の惡崖に立つて雲と化す噴烟の物凄さに打たれたと將に殆んど同樣な感がする。實に蘇山の大と比較するのは此の水の山である。だが雄大壯觀の眞の味は寧ろ此より彼の火の山に在る樣に思ふ。唯此處には水の威力を遺憾なく發揮して居る處に面白味がある樣である。しかし是は、「水の山」であつて「瀧」と申すには其巾さが其高さに比してあまりに廣過ぎて話にならぬ、丈物足らないのかとも思ふ。此物足らなさに水の音さへ影を潛めて聞へない憾がある樣であつた。

折からの此風にK君は帽を飛ばした、途方に暮れたK君の顏は氣の毒でなつた。運轉手は危險を冒し、氷の凸凹を踏んで取つてくれた。振り返つて見ると崖下の流れは黃灰色に濁つて向ふに大きな鐵橋の影をぼんやり浮出さしてゐた。

○紐育着

「ナイヤガラ」見物に失望した三人は、彼岸の加奈太側に向ふ元氣が失せて「バ」市に引返した。

其夜の列車に便乘して紐育に向つた。バ市は將に紐育州內の都市である。鐵路は「ホドソン」河谿を南して十時間餘りで達することが出來るのだゝうな。

疲勞と安心とで熟睡したので翌朝は八時頃迄寢込んでしまつた が、列過中アルバニー驛で約三時間餘ブラ〳〵して、十時半頃になるだらうとの事で幸に快晴の食堂車中から「ホドソン」河の景色を右手に賞することが出來た。河の凍結したのを見た事のない自分には、心地よい朝食を喫するの榮を得た。

氷上には漁獵を樂む人影も見へた。彼岸の丘上には古城の樣な建築の夢の樣に現れては消へて行つた。「雲あらざるに何の龍」ぞと怪まれる虹の樣な鐵橋が危げに架けられた景色もあつた。西岸の崖は時折斧もて斫刻した樣な絶壁になつて居る。崖の間に平地を挾む處には雅致ある村落の宿る處もあつた。

「ヨンカー」驛附近では「オーチス・エレベーター」會社の工場を眼下に視て、十時紐育の郊外に近いた。「ハーレム」河に添ふて進路東南に轉ずる頃は、兩岸の丘から平地に到る迄十數階の建物が聳え立つて大都市の背面を展開して居る。

百二十五丁目驛附近では、煉瓦造四五階の家々の眞前を高架線となつて馳つて居た。やがて有名なグランドセントラル驛に入り込むべく列車は除々に地下線に侵入した。十時半それでも無事に紐育の人となつた。

◇　◇　◇

彼と吾 (1)

消防ばなし

かうそん

○拔地百尺の半以上を超ゆる某ビルディングの最上層、所謂天井裏住ひの我事務室とは云へ、廣袤六十餘坪の片隅より、年百年中、大河の洋悠たる流れでも視るかのよう、大阪滿都の巍嵯たる甍を看下し、時々摺り半鐘の空を撞くアノ引き緊つて陰に籠つた音と、時偶ま、脚下數十尺の地べたを、ガソリン喞筒の氣魂しくうめいて疾驅する響きに、扨てはと、窓外一瞥、大概の場合、祝融子のアノ怖ろしく渦巻ける吐く息と、ぺろ〳〵と嘗め竭さんかの紅蓮成す舌とを、遠く或は近く指呼し得る我事務室は、宛然維れ「火見番」、常住の高層生活てふ關係からも、まんざら消防話しにゆかり無き業ざにはあらざるべし。

○「建築」と「消防」、「建築家」と「消防當局者」、それは、「保健家」と「お醫者」——然り外科醫の荒療治、さなくば「祝融子」と唐ら名に呼ばるゝ細菌と我等の生活體、關係は、爾く同じ軒下のなりはいなり。扨てこそ、「消防」てふ外科治療の外に、生活體其ものゝ「防火」てふ自己保健問題あり、是ぞ、建築家と消防當局者の滿更ならぬ緣しの繋ぎにてぞあんめり。

○大うねりして流れつゝあるような滿都の甍、圓周百九十度を見渡しつゝ、さみだれの雨ま脚し欲みて、甍に水平線の盡くる處、漠湖として灰暗色の取り隅に、薄紫色のベールを透して看るがよう、其處等邊り煙れる大都の空らを、吾が直前の窓外に顎臂立てゝ睨むだとて、本誌の編輯計畫に次から次へとこんがらつて渦巻ける吾が頭の裡は、此

の梅雨空らのような、しめやけき閑寂さで莫く、あれか、これか、結局の思案は、何時しか、吾れと吾れを、某消防署の一室に看出しぬ。

○遖がに、騒音の都も、しと〳〵と降る今日此頃の永が雨に、凡ゆる響きを洗ひ流したかのようひつそりと、唯電車の轢る音のみ厭やに強く響ける外界の中にも、此處許りは、今にも白煙り吐いて駈け出しそうな喞筒の幾臺に、救命梯子から、消防道具の數々、物騒そうな赤丸高張りに、幾戰場の功を經たらむが如き軍旗ならぬ標旗に至る迄、何となく不斷の緊張振りを見せ、鐵塔高く中空を拔ける頂頭、顧望宇窺、絶へず警戒せる消防手と共に、聯隊司令部格の、効い〳〵しき職員諸氏、沈寂の裡、活氣自ら動いて、祝融子の來襲を、眄睨する態ま頼母し。

○斯る裡にも、署長H氏は、快く記者を迎へ、緊中緩を示して、消防談は、折柄の細雨と共に霏々として竭きず。

『左樣、お說の通りに、建築家と消防當局者は滿更ら市人のような關係じやなくて、餘程近い緣者としての關係がありますからなァ』

「何事ぞ花見る人の長刀」——韻雅の中に沒趣味あり、無風流の裡に風流あり、徐ろに煎茶一點、記者に進めつゝ、談、緩如として、煎茶の芳味、氣心頗る爽なり。

『私共が建築家にお望み致し度い事は色々ありますが、何んと申しても、火災上の保安といふ事は、二つの方面から考へねばなるまいかと思ふて居ります、それは、私共の立場として、一旦び發火した際は出來得る限り最小限度の損害に於て火災を防ぐといふ事は勿論でムいますが、他面には申す迄もなく努めて火災の機會を無くするやうに心懸けて貰ふ外、一旦發火しても、容易に燃燒せない方法の研究が、消防政策とでも申しましようか、兎も角火災より免れ若くは其機會を少くする處の積極的な問題ではありますまいか、斯の最後の事は、餘程大きなそして却々難しい問題ではムいますが、それは什うしても先づ建築家に篤き交涉を有つ處の問題であらうかと思ひます』

幾人かの戎服姿な職員、默々として、書類を展げ

ペンを乘り、室内寂として、時々電鈴の氣魂ましき響きと、消防曹長の應へる聲のみ高し。

H氏の頗る慇懃な物腰しと、余程碎けたる話し振りに、記者は少なからず話の調子を得て、話はそれからそれへと進む。氏は更に言葉を續く。

『實の處を申しますと、私共は、消防研究の一科として、建築上の知識をも大に叩き込み度いのですが、什うもまだ其處迄の機會が無いのにちよつと閉口して居ります。……何んですつて？建築界は建築家で消防といふ事にまだ升う迄進むでゐない、といふのですか？、ハ、、、そうでしよう、日本としては何分どちらも餘程近來の發達を遂げ又遂げつゝあるのですから、是からが互に交渉を切實に有つのでムいます。私共は、建築家とも恒に接觸して、消防上に就て知識を獲なくてはなりませぬし、又私共としても、若し建築家の御參考になるような事は申上げ度いと思ふて居ります。あなたの方は、關西建築協會とか云ふのがありましたか、アレでムいますか、……成る程、ハアハア、只今の日本建築協會といふのに改めたのですつて、ハア升うでムいますか、私は、アノ關西建築協會の發會式かに招待を受けて參りましたが、其節是は大層好いものが出來たと喜むだような次第で……』

H氏却々お上手である、升し、ちと手前味噌かも知らぬが、眞實くの處、我協會のような機關のある事を眞實欣むでゐらつしやるようであつた。話は斯う何時までも總論的なのや、抽象的ではいかない。何も梅雨空らの徒然を、處もあらうに、此の嚴めしい殺風景な處へ持つて來るでもない、鹿爪らしく云へば「建築政策と消防政策」、碎けて云はゝ「一體建物を拵へるとき什麼事を考へたら火事が少うおますやろ？」といふような、吾が使命があるのだ、仍で、話頭一轉、本論へ切り込むだ。

『升うですか、色々考へて居る事もありますが現代の建築物其ものが耐火的なものとならない以上、私は、成るべく一戸毎——長屋抔なら其一棟毎——各獨立の防火帶？と爲たら、と思つて居りますが、其防火帶と云ふのは、實は成

るべく「防火壁」を設けて貰ひ度いのです。防火壁と云へば、直ぐに、例の煉瓦壁とか、鐵筋混凝土壁とかいふ風に、比較的金の掛る設備の事を思ふようでムいますが、私共の實驗上から申しますと、外見の調和さへ取れたら、何もソウ金を掛けなくても、例の「亞鉛鐵板」で充分防火力があります。……ハア、成る程、建築家としても認めて居る人もありますかネ、……眞實くアノ薄い板一枚で以て類燒を防ぎ得た實例は幾等もあります、是抔はソウ大して金の懸るものでないのですから、あなたの方でも、成るべく防火壁を拵へるように宣傳して頂き度いですナ」

『何にしても、發火を早く發見する事さへ出來ましたなら、不慮の事情無き限り、ソウ大事にならぬように、吾々の方でも警戒も爲、又其設備もあるのですから……。此の發見といふ事も、建築上に多少な關係を有つて居ると思ひます、例へば、先日立賣堀の材木倉庫が類燒したときでも、其發火の場所と云ひ、延燒の方向と云ひ、今以てどうも解せられない點があるのでムいますが、それは兎も角、アノ火事は當署の火見櫓から發見して、直ぐに其處へ往つて約四分間しか掛らなかつたのですが、行つた時は最早全部に火が廻つて、結局全燒したのです。要するに發見が遲かつたのでムいますヨ。それも、屋根が全部亞鉛板張りであつた事が、見に容易でなかつた原因ではあるまいかと考へて居ります。……まあ御覽被下い斯ういふ狀態に妙な燒け方を爲て居るのですかネ……」

H氏は徐ろに立つて、其處等邊りを探り、一枚の圖面を記者の前に展いて、說明頗る叮嚀であつた。記者の常識觀からしても、成る程是では發見が容易でなかつたナ、と肯かれた。

『それから、例の飛び火して類燒する事に就ても、私共の經驗から致しますと、最初は多く雨樋抔へ火の粉が落ちて、是が恰當圍子のよう、其處等邊りを轉げるのです、そして、それが軒の間隙抔から屋根裏へ這入つて大事になるのです、若も、其建物が、燃燒してゐる建物から

熱を受けて居るのであつたなら、一層容易に燃へ上るのです。斯ういふ狀態で厶いますから、殊に日本家屋抔には、斯る危險な條件を有つて居る處の「間隙」に就て、建築家の御考慮を希望致し度いのです。』

更にH氏は語を續けた。

『も一つ建築家と御相談申上度たい樣に思ふて居ります事は、河川の利用と消防器械抔の置き場所で厶います。河に面した建物や、或は河に近いそれ等に就て、一旦發火の場合、アノ滿々たる河水を見乍ら、それが充分利用出來得ないといふような事が、私共の從來屢々經驗してゐる處で厶いますヨ。例へばですナ、喞筒を据へましても、直き鼻の先きに河水を見乍ら、吸管一つ通ほす箇所の無いような建て方を爲てゐる處が市内には隨分有ります。是等は少々な注意と、大した事でもない工費で出來る事ですから日本建築協會の方からも御注意被下るなら大層結構だと思ふて居りますが……』

成る程、記者も、斯ういふ寧ろ滑稽なそして皮肉な事實を、何處かの火災で見た事があつたッケ、と思ふた。皮肉！と云へば、確に皮肉だ。つい目と鼻の先きに、祝融子が其大敵「水の手」を睥睨しつゝ、悠々獰猛振りを發揮するのだから。其建物抔は、要するに、千金を握つて餓死するの格だ、悲慘な滑稽とは、確に斯麼事であらう。

『それからですナ、喞筒の据へ場所ですが、大きな建物抔になりますと、喞筒の二臺や三臺据へる位な場所を常に取つて置いた處で、比率の上から云つてソウ大した費用が要る譯でもありますまいに、建築物に豫め斯ういふ考慮がちよつとも拂はれてないように見受けます。ですから、一朝發火の場合、其近くに喞筒の一臺すら据へられない事もありますので、消防上非常に不利益な事が屢々あります。常時は何かに利用する事を考へて、斯ういふ場所を豫め設けて頂き度いのです。』

話は更に道路の方に飛んだ。そして、H氏と記者との間に、一體日本人の癖として、自分の仕事がどれ丈け他の仕事に關係を有ち、影響を有するか

といふ事を餘り考へない、謂はゞ、共同的動作の觀念が甚だ缺けては居るまいか、といふやうな話が一頻りはずんで、H氏は、奈何にも當惑したといふやうな表情を爲しつゝ、

『其一例として、實際私共の屢々困らされるのは消防署の周圍を、他の場所と少しも異らずにやれ鐵管の埋設だとか、それ電話線の何んだとか云つて、永い間土を掘り返へされてゐる事です、私共消防當局者として、是れぢやア恰度足を封じられたやうなものですからナ、想ふても見て被下い、喞筒一臺が何千貫もあるのですからナ、幷奴には眞實くの處困らされます。』

斯く話は、それからそれへと盡きない。鈍き光りが、灰暗色の空を通して、冊ッと窓際はに投げられたが、忽ちに、亦瀟滌として雨は一頻りであつたア、何時歇む事だらうか。（畢——一九二一、六、一八）

亞米利加の消防園

先づ大体喞筒掛りと梯子釣掛りとの二組に分れ、各組合員概ね二十名を超ゆることなし。而して多くは此喞筒掛三組と梯子釣掛一組とに依て一隊を成立し、此の一隊まづ第一警報に接して出發すべく、尚ほ第二に警報ある時は、補充の一隊出發す。又一隊毎に隊長ありて、消防夫訓練及び消防用具保全の責に任じ、且つ自己消防區域内に於ける火災豫防令の執行を監察す。更に大都會に於ては、數多の消防隊集合して、一大隊（バタイオン）を組織し、各大隊に大隊長（イオンチーフ）あつて、火災場裡の消防隊を司令す。又數多の大隊集合して一大團を編成し之に總代理（デーピューチーフ）官ありて、非常火災の消防運動を總攬すると同時に、内勢行政官及びツシギル、コンミッテイーとしての責任を有するものとせり。

蝸牛の殻

——物質生活と精神生活——

吉村美代子

◎私が或る尼寺にお詣りをした日。

◎白い襟と黒い法衣、袈裟と、たゞそれだけの二つの色、人生を有と無、生と死にかつきり截ち切つて見てゐる單純な色で彩られた尼法師は、私を本堂の奥の方に導きながら、須彌壇の金蓮や銀蓮の光りが莊嚴な內陣に浮いて見ゐる處で、私に佛の無常觀を說き聽かしてくれた。

◎佛によれば、時間的にも空間的にも、一切は無常であるといふのである。即ち如何なるものでも今この一瞬間に「新」といふ事はない、一切は流轉してゐる、變遷してゐる、金城鐵壁でも、七寶莊嚴でも、大天大地、水火風土、悉くそれが今新しいといふ間に、もうその何れかゞ破壞散滅の最初の端緒を開いてゐるのである、といふ。

◎しかし只、この理法の外に超然たるものは世界終始を通じて唯一つある、それは佛の「中道」である、即ち菩薩相である、言をかへて云へば「悟」であるといふのである。

◎私どもは、その佛の「中道」に達しなければいけない、菩薩相を得なくてはならない、「悟」を開かなければならない、精神的に——靈的に不退轉の域に到らなくてはならない、と。

◎私は尼寺を出た——。

◎私は淀屋橋を通つた。

◎新しい巨きい高い壯麗な新市廳舍が私の頭の上に聳え立つてゐた、私はそれを仰いで見て「よくもまあ五尺足らずの人間の腕で、こんな巨きなものが出來たものだ」と感心した。そして私はこの巨大な大建築物の前に、知らず識らず頭が下るやうな氣にならない譯にはいかなかつた。私は人間

の恐ろしい「力」をそこに認めない譯にはいかなかつた。

◎私はこのグレート大阪を表徴する我がジャイアントの萬代不朽であることを考へた。こんな「巨大」にも矢張り無常があるのだらうかと考へた。しかし、矢張りこれは理數の免れ得ない處であらうと思つた。

◎けれどもそれは構はない事だと思つた。舊いものは滅して、新しいものが生れる處に生命があるのだと考へれば差し支へはないと思ふのである。佛に依れば、一切は無常なるが故に、一切は次第に生命が蝕ばまれてゆくやうであるが、私はそれを一切が滅びつゝ一切が芽生えてゆくと云ひたい。

◎大大阪（グレート）は更に又新市廳舍を、更にまた更に新らしいものを永久に建て替へてゆけばよい。

◎私は淀屋橋を通り過ぎた。

◎私は私の小さい棲家に歸つた。

◎私は机の前に座つて考へたるは、日本人の生活は矢張り依然として舊のまゝだといふ事である。

日本人は現に椅子を用ゐる、日本人は洋服を用ゐる、日本人はパンを食べる、併しそれ等は、疊、キモノ、ライスに對してどれ程の實力を有つてゐるか、分量を有つてゐるか、「新しい生活」はまだ日本人の舊生活の分野へ二分とは喰ひ込んでゐない。

◎新生活の高唱される世の中に、舊生活が根を張つて動かない生きた證據は澤山ある。茶の湯は非衛生的だが廢れない、謠曲は非聲樂的であり、非純文章的だが廢れない、能樂はこの物質的な現代に餘りにロマンチックなものだが廢れない、新劇は舊劇を動かし得ない、生花は非自然で俗臭ある藝術だが廢れない、南畫は依然として喜ばれる、漢字制限——全廢が行はれ得べくして行はれないまだいくらでも例はあるだらう。

◎殼に替ふるにマッチ箱を以つてせよと云つた處で、それは蝸牛（かたつむり）に對しては無理である。

◎すべて人間の生活はその生活に着密した「必須」といふ殼を有つてゐる、「必須」を引放すと生活はお陀佛である。

◎今の漢字制限――全廃は、その幾分を假名にせよ、或ひは全部を假名にせよ、といふのだが、果して斯うした曉には、今より日本人の生活が便利を受け、幸福にされるといふ事を、誰れが斷言するのだらうか。それで、日本人の是れからの複雑した日常の用辨が何の位ゐ進捗し、立派な文藝が遺憾なく表現し得られるだらうか、私は未だ疑ひを有つてゐる。

◎人間の生活は、質の上にばかり立つてゐるものと思つてはいけない。半分は、精神の上にも立つてゐる事を考へなくてはならぬ。質の上に立つてゐる部分は改め易いけれど、精神の上に立つてゐる部分は、その人間の生命とつり替へでなくては容易に改められない。生命とつり替へて迄も、人間は生活を改めなければならぬといふ理屈はどこにも無い筈である。

◎茶の湯も謠も藷劇も皆な、そんなものは我々日本人の精神の上に立つてゐる生活の一部だ、だから容易に根底が動かない。手拭をより使ひ心地のいゝタオルに改める事はすぐ出來る、行燈を電燈にする事は尤もである、けれども、都踊りをダンスの舞臺に替へやうとは考へられない。あゝいふ舞踊もまた日本人の藝術生活に巢喰つて來た根底のあるものであるから。

◎日本人の生活の全部を西洋人の生活と同樣にするには、日本人の全部を西洋人そのものにしなくてはならない。それは、物質の方面から見た日本人ばかりではなくて、精神の方面から觀た日本人すべても、西洋人にしなくてはならない。

◎西洋人の物質生活の今日在る所以は、此處までに導いた西洋人の、思想、習慣、歷史、といふものが過去に在るのだ。

◎そして日本人にもヤハリ日本人特有のこれ等――即ち文化を有つてゐる。

◎日本人と西洋人には、或る一方に聯絡は取り得る、或る程度迄の同化は出來得る、けれども、水と油のやうに、到底相一致の出來ない一點を有つてゐることは否まれない。皮膚の色、髮の質、肉體の長短、體質の組織、想思の根本――それ等の相違は、到底、兩者の全生活を合一ならしめる事

は出來ない。

◎それだのに、今日あらゆる方面に改造の聲高く叫ばれるところ、或る人は、往々我々日本人の「根本」を押退けてまでも、西歐文明に心醉して、不自然な鵜呑みを敢てしないであらうか。そこには、角をためさんとして牛を殺すの愚を爲さないと言へるだらう？、私は疑ひなきを得ない。

◎今日私どもの住む家を、西洋建にする事は少しも差支へがない、それは、物質の上から見た社會生活だからである。けれども、精神生活の上から見てもう一つ、日本人としての、否、自分自身としての、工風を凝らし、調和を考へ、更に希望を添へる人が澤山に在るであらうか。

日本文學と和歌

日本の文學を、昔から今日まで通觀して考へると、その發達の根柢は和歌であるように思はれる。和歌は縱にも、橫にも、國文學を貫いてゐる。人の知る如く、日本の歌は歷史と共に古いもので、日本が起つた當時既に歌があつたのである。神代から既に歌があり、素盞嗚尊の歌を詠まれたのが歌の濫觴だと書いてある位だから、とにかく神武天皇以前に歌のあつた事は明かである。又其後には、神武天皇を始として、御製もあるし、皇后や皇子達の御歌もある。それで、一般國民の歌もあつたであらうが、何分歷史が不完全な爲に、これは傳はつては居らぬ。けれども、支那の文學が日本に入らぬ前、又印度の佛敎も入つて來ない以前に、既に我國に和歌といふ獨特の文學があつた事は、歷代の天皇の御製や皇后の御歌が遺つてゐるのを見ても解る。其後支那の文學が入つて來て、この最古の歌を基として一層その文學思想を發達させたのが、奈良朝時代の文學である。



「時報」

法令

◉住宅組合施行細則

政府が唯一の住宅難緩和策として第四十四議會を通過せしめた住宅組合法の施行細則及び共模範定款は豫て內務省で作成中であつたが愈々六月二十九日最後の決定を見たので近くに細則及び定款共公布の運びとなるべく其施行期は七月十日であると、施行細則の骨子は左の通りである

一、出資一口の金額は二百圓以下の事

二、組合員は五十口以上を所持する事を得ざる事

三、一戸を建設し得べき出資口數を有すべき事

四、地方長官より設立認可を受けたる際は第一回の拂込を爲す事

五、其拂込金額は出資一口に對し基金額の五十分の一を下らざる事

六、組合の供給する家屋の坪數は各階の床面積合計五十坪を越ゆざる事

而して其低利資金は大藏省及び遞信省から供給する筈であるが何れも利率四分八厘で返還期限の最長年限は大藏省二十年、遞信省二十五年で資金供給時期は多分十月中だらうと尤も大藏、遞信兩省が本年度に於て如何程の供給額を負擔すべきやは不明であるが十年度に於て住宅建設、公設市場建設等の資金として各府縣に割當てたのは合計一千萬圓であるが一度政府が住宅組合法を制定して積極的住宅救濟の聲を擧げるや住宅難に惱める各府縣民は一齊にその資供給を出願し來る有樣なので到底右の如き少額の低資は東京府の申請だけにすら不足する實情にあり然も一方大藏省は財政緊縮の名に依つて既定の低資供給すら成るべく手控へやうとする傾向があるので斯くては折角社會政策を高唱して組合法規を制定しても住宅難を緩和する事は覺束なく世間は必ずや有名無實の法律として政府の施設に多くの期待を拂はぬに至るから內務省は施行細則公布と共に遞信大藏兩省と十分腹意なき折衝を遂げ少しでも多額の低資を供給せしむべく努力する筈だと。

都市施設

◉住宅組合資金融通

住宅組合法に依る住宅建築申込は六月十日を以て締切つた筈である此の申込を受理してゐる大阪市社會部は申込人や質疑者で毎日大騒ひであつたが八日までの申込數は合計百十三組總築資金九百六十五萬六千六百六十三圓で內低利資金借入申込額は五百四十二萬八千七百十一圓に上つてゐる九日も朝來申込者が續々市役者に詰め掛けたから十日の締切には建築資金も低利資金借入申込額も共に其倍額の一千萬圓に達するであらうと理事者は豫想してゐる尙市は十日之れを締切つた上府に申達し府は府下全部を取纏めて內務省に申告す內務省は其割當額を決める順序であるが市は其割當額の決定と同時に申込者の實際に就て調査する等である八日までの申込者のうちで一番に大規模なのは齒刷子製造組合が市外鶴橋町に二千坪の地を有し建築資金三十二萬圓中低利資金三十萬圓を借入れ四十戸の住宅を建築せんとするもので此の組合長は鶴橋町の渡邊富造氏である次に最も堅實な組合と目すべきは北區天滿橋筋二丁目の官吏岡本隆長氏外十名は建築資金五千六百圓中低利資金五千圓を借入れ最初は延建坪二十四坪の家屋二戸建てで之れを組合員抽籤で割當を決め其の家屋を擔保にして更に資金を借入れ斯うして漸次二戸宛建てる計畫だと。

◉貸間市營の計畫

大阪市の社會部では住宅難を緩和するには現在の市營住宅を以て滿足する事が出來ないので今度外國の文明都市に多く設けられて居るアパートメント所謂貸間を經營する事に決し既に其筋に此財源として低利資金三十萬圓の貸與方を申請すると同時に其建設地の撰擇と建物の構造設計等に就き目下研究中であるが之れに就いて天野市社會部長は語る

外國の都市抔には勞働者やサラリーマンに貸間を提供して住宅難の緩和に努めて居るが日本には未だ斯うした例が無い爲め建物の設計等に就いて可なりの苦心を要する譯で目下計畫中のものは勿論鐵筋コンクリート建數階となし適當な貸間を造り一階は家庭を有つた人に、二階三階は獨身者に貸與すると云つた風にしたら惡うかと思つてゐるが只今の處では尙素人の設計で確な成案がない何れ近く專門家をして外國都市のそれを參酌せしめ設計を成さしむる運びで低利資金の融通を受ければ今年度中には實現せしむる豫定だが之れが出來れば適當な下宿屋を得るに苦しんでゐる學生や一般借家人は多大の便利を得るであらうと。

◉大阪市大南塲建設

大阪市に於ては現在の假市廳舍が中之島の新市廳舍に移轉した後を中央市場にする計畫を樹てゝ設計迄やつたが其後世界各國の實情を調査し研究に研究を重ねた結果地所が狹隘であるのと將來發展する素質を多く有たない關係と今一つ附近に市場附屬の商店が店舖を出す餘地がないので遂に舊廳舍



日本建築協會終身賛助員大高庄右衛門氏、宿痾終に癒へず大正十年五月三十日午前六時を以て逝く、痛惜限り無し。氏は、千葉縣山武郡大富村の人にして、夙に窯業に志し、明治十九年我外務省臨時建築局より派遣されて、獨逸に留學、煉瓦製造を研究す。蓋し、我邦人として、斯業研究の爲にする渡歐は、氏を以て嚆矢となす。歸來、日本煉瓦製造株式會社技師として、カツセル窯の築造、化粧煉瓦の製作等を始め、爾來我窯業界殊に煉瓦の研究製作に寄與する處鮮ならず。更に明治三十二年、再び政府より派遣せられ、伊佛獨英等の煉瓦製造事業の視察を爲して得る處あり。歸朝後、大阪窯業株式會社支配人技師長と成り、後、取締役を兼ねて、爾來廿餘年間全會社の爲に盡す處甚だ厚きものありき。而して、晩年、十餘の會社に取締役として手腕を振へり。享年五十七、前途尚ほ春秋に富み、氏の貢献に俟つ處尠からざるものあるの今、慟うて、惜哀禁じ能はざるなり、茲に謹で吊悼の意を捧ぐ。

蹟を中央市場にする計畫を捨て其代りに淨正橋、玉江橋より以西船津橋に至る廣大なる土地を曾根崎川を中心として買收し其處に一大市場を作り曾根崎川は之れを埋立て西成線の分岐を受けて鐵道線路を市場の中央に引込み海陸の連絡を完全に行はんとする一大計畫があるそして之れで市内北部の大市場として西部の中央市場は湊町停車場の廢止となり空く後を買收し西部の市民に供給すべき物資を集散すべき大市場となす豫定であるが又場合に依つては築港方面に牛肉と鷄卵のみの市場を設け青島其他の方面から輸入或は移入される牛肉は築港の屠殺場より直ちに同市場に送り上海其他内地各地より來る鷄卵は共に同市場より市内の各小市場に送る計畫もあり又櫻宮水源地には鐵道省が貨物列車の大ヤードを作る計畫があるので其方面にも青物のみの集散地を作り同地に於て近府縣より來る青物を一旦集め之れを分類して兩中央市場に送る計畫がある而して此の大計畫を全部市が直營すると云ふ事は市の財政上許さないから市としては地所建物其他一切の市場設備を爲し之を民間の會社に賃貸料を徵收して貸下げ其の賃貸料を以て市場設備を爲す爲めに要せし資金（多分公債募集）の元利償却を行ふ豫定であるが此の大計畫の實現には尙ほ數年の歲月を待たなければならず市としては大體計畫の樹立のために市より海外へ現業員を派遣する筈であると。

◉大阪市美術館起工

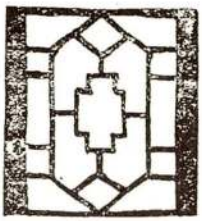
大阪市が經費一百萬圓を投じて近く建設する美術館は曩に設計案を懸賞募集したるが市の營繕課にては右設計案を基礎として愈々建築實行設計に取りかゝる豫定にてそれに要する事務費豫算を編成中なるが各專門技師七八名を專屬せしめ之に二三の名家を囑託して大體の設計だけを本年度中に仕上げ更に來年度に於ては各部分の設計を爲すと共に其内敷地の選定を了し遲くとも來年秋頃より起工する豫定であると

都市計畫

◉都市計畫法適用

内務省にては六大都市以外の都市にも都市計畫法を適用すべく各都市よりの選定に對し鋭て調査中なりしが六月九日の參事官會議に於て左の三十都市を選定せしが尙次官大臣の決裁を經て參議を纏め法制局に廻付し近く勅令に依り指定せらるべし因に京都、名古屋、横濱三都市計畫施行區域も數日中に決定發表せらるべしと。

小倉、八幡、大牟田、門司、下關、今治、高知、四日市、岐阜、高岡、富山、長岡、濱松、津、横須賀、金澤、新潟、高崎、吳、廣島、岡山、長崎、宇治山田、大垣、前橋、鹿兒島、松山、岡崎、熊本、福岡



會報

會合

○五日會七月會々員招待會

△日時　五月二十七日午後七時―九時半
△會場　中央公會堂食堂
△出席者　竹中、木村、長瀬、田中、大林、伊藤、錢高、橋本、德政、山本、久保田、千葉池田、細野、葛城、小阪井、布袋、有山、森下、山縣、清水、古川、栗山片岡、葛野、瀬戸、横濱、吉木、吉井、小笠原、池田、西谷（書記）
△記事　會食後本協會主催住宅改造博覽會寄附金に付會談す

○大新新市廳舍見學會

△日時　六月三日午後四時半
△順序　六月三日午後四時半大新市廳舍裏門に參集、各員に「大阪市廳舍概要」を配付し會員永野房吉君（新廳舍現場主任）の先導にて一同見學を爲す。
△參加者　大下、有山、布袋、白杉、野村、鎭西、木村、竹内、藤田、鈴木、新海、永瀬村松、辻井、佐々木、天羽、山口、竹中、竹中（藤）、進藤、小島、橋本、光安、中川、森伊藤、村上、新谷、保田、野々山、森下、葛野、小谷、影山、久保田、山本、福永、中村伸野、吉永、山添、坪井、久保、片山、舟橋本橋、高村、高橋、吉井、高岡、金子、藤村松本、友田、村上、鈴木、一井、寶力、福永（金）、植竹、田中、辰巳、熊取谷、增田、佐藤、武田、泉谷、阪口、丸山、片山、岡、波江、山崎（書記）

○理事會

△日時　六月六日午後五時半―九時
△會場　本協會事務所
△出席者　葛野、池田、吉木、小笠原、松本、波江、瀨戸、西谷（書記）
△議事　一、市街地建築に對する假設物建設に就て建築物前歩道上に物置場建築許可を府廳に願出の件。一、財務委員會經過報告。一、會員詮衡。一、雜誌廣告整理。一、六月例會に講演會を催すこと。一、會計報告

○例會

△日時　六月十七日午後六時―九時半
△會場　本協會事務所
△出席者　安井、呼子、光安、流石、竹中（景）山本（磯）、舟橋、久保田（小）浦、近澤、杉原、奮、天羽、西田、島田、岡本、坪井、熊取谷、中川（長）、辰巳、田中、杉田、佐藤高嶋、足立、兒玉、谷口（德）、池田、杉本葛野、池田、波江、小笠原、吉井、西谷（書記）、山崎（書記）
△記事　葛野理事長先づ開會を宣し次で會員安井武雄氏の「北米視察談」の講演に移り少憩後日本ペイント製造株式會社技師長伊東貞輔氏の「ペイントの種類

並に採用に就て」の講演あり。

○理事會

△日時　六月二十日午後五時半ー九時半
△會場　本協會事務所
出席者　池田、吉本、小笠原、波江
△議事　一、歩道使用許可願の件に就ては「法政委員會」を組織して審議すること　一、材料規格統一講演會に就ては舊第七部委員並材料聯合調査委員を以て「材料委員會」を組織し、細目を決定すること。一、六月二十七日に臨時理事會を開催すること。一、事務所設備費を使用し會場を利用すること。

會務

△終身賛助員故大高庄右衛門氏の告別式濱寺公會堂に於て擧行の際瀬戸理事は本協會々員一同を代して參列せられたり。
△日本建築士會より「建築士の業務報酬規程」一部の寄贈を受けたり。
△建築材料聯合調査會より木材煉瓦規格書類四百部の寄贈を受けたり。

○新入會員

（會員）　楠瀬徹氏、片岡勇夫氏。
（普通賛助員）　久田見治平氏、木下善三郎氏、小關森市氏

○住所移轉

安井　武雄氏　兵庫縣武庫郡鳴尾村西畑二ノ二
天羽　六郎氏　大阪市西區田中町夕凪通九八ノ七八
森川喜代之助氏　大阪市北區本庄中野町四三三ノ二
高井　久治氏　大阪府中河内郡英田村字吉田
池田　勘藏氏　大阪市北區曾根崎新地三ノ一三
永田　實氏　名古屋市東區平田町二一
西田　榮一氏　東京市上野公園不忍池畔國產奬勵會陳列館建築事務所內
秋吉鐵五郎氏　東京府荏原郡駒澤村字三軒茶屋二〇
小川久太郎氏　支那上海日本郵便局私書函用第一三四
有川　淳氏　大阪市西區田中町四〇ノ一
長澤　榮作氏　大阪市四區酉島町七

○會員改名

△普通賛助員久米菊　郎氏は今回村上菊一郎と改名せられたり。
△普通賛助員土屋濱之助氏は今回延山政雄と改名せられたり。

○會員死亡

終身賛助員大高庄右衛門氏は病氣の處九月三十日永眠せられたり哀悼の至りに禁へず

○寄贈圖面

建築業協會々報　五號　建築業協會
滿洲建築協會雜誌　五號　滿洲建築協會
大阪土木建築業組合會報　一八號　同組合
大阪市商工時報　三五號　大阪市商工課
住宅　六號　住宅改良會
建築雜誌　五號　建築學會
建築畫報　六號　建築畫報社
農家の友　六號　農家の友社
國民經濟雜誌　六號　神戸高等商業學校
工業の友　六號　工手學校內其社
庭園　六號　庭園協會
電氣學會雜誌　六號　電氣學會
平民建築會誌　六號　帝國工業教育會
二九〇號　大阪工業會
工業の日本　六號　工業の日本社
建築世界　六號　建築世界社
新住宅　六號　洪洋社
都市計畫資料　大阪市都市計畫課
材木新聞　六六七號迄　材木新聞社
金屬工業新聞　五年六ノ二迄　金屬工業新聞社
土木建築　七六號　土木建築社

役員及職員

副會頭　片岡安

理事　葛野壯一郎（理事長）

理事　波江悌夫（主記）

理事　瀨戸文吾（主計）

理事　横濱勉（編輯）

理事　小笠原釼（編輯）

理事　吉井長七（編輯）

理事　池田寶

理事　吉木久吉

理事　松本萬象

理事　平井三郎

編輯補　佐藤四郎

江村郊邨

書記　西谷節

武波泰

山崎萬壽夫

會員	一九七	會員（地方）	七七
名譽賛助員	七〇	終身賛助員	五二
特別賛助員	一六	普通賛助員	三三八
合計（六月廿五日現在）	七五〇		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓

特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ

大正十年六月三十日印刷
大正十年七月五日發行　（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一

大阪市東區內淡路町一丁目廿一番地
印刷兼印刷人　大阪活版所

大阪市西區京町堀上通一丁目不動ビルディング內
發行所　日本建築協會
電話　土佐堀四、二九三番
振替口座大阪三九、九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座　二〇八四番

●第四集　第七号　掲載広告一覧（掲載順）

浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
舟橋建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所

設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
片岡松井建築事務所
池田勘蔵
橋本料左衛門商店
日本土木大阪出張所
大林組
中川辰蔵
竹中工務店
長瀬組
上瀧組
熊取谷熊次郎
野村亥之助
久保田組
山本組
藤木正一
松村組

小西組
鴻池組
有山福重郎
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
木村組
森下新造
清水組大阪支店
銭高組
山縣組
清水工務店
日本木材工芸
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所
矢橋商店
吉田鹿之助商店
高田商会

須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業
砂崎
村井工業所
河村青写真調製所
山本コンベス商会
大野正営業所
野沢幸三郎商店
日本石綿盤製造
東京建鉄
有田製陶所
宇野沢組スティンド硝子製作所
共同建材製作所

都市工業
コルク工業
日本工剤
鈴木製作所
大阪煖房商会
大阪電気商会
川崎工場
北木島石材大阪出張所
高田商会銀座販売店
サクラ工業所
淡陶
東京電気
ホーン
浅野スレート大阪出張所
吉田鉄工所
大阪金物商会
横河橋梁製作所
日本水道衛生工事
極東硝子工業